

## 南海トラフ地震関連解説情報について

### －最近の南海トラフ周辺の地殻活動－

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時<sup>(注)</sup>と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震(M8～M9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70～80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から既に70年以上が経過していることから切迫性の高い状態です。

#### 1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震(微動)のうち、主なものは以下のとおりです。

(1) 四国西部：2月6日から10日

(2) 四国中部から西部：2月10日から継続中

#### 2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。また、周辺の傾斜データ及びGNSS観測でも、わずかな変化が見られています。

GNSS観測によると、2019年4月頃から紀伊半島西部・四国東部でそれまでの傾向とは異なる地殻変動を観測しています。

(長期的な地殻変動)

GNSS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

#### 3. 地殻活動の評価

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震(微動)と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2019年4月頃からの紀伊半島西部・四国東部の地殻変動は、紀伊水道周辺のプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

これらの深部低周波地震(微動)、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

以上を内容とする「南海トラフ地震関連解説情報」を本日17時に発表しました。

添付の説明資料は、気象庁、国土地理院、防災科学技術研究所及び産業技術総合研究所の資料から作成。

気象庁の資料には、防災科学技術研究所、産業技術総合研究所、東京大学、名古屋大学等のデータも使用。

産業技術総合研究所の資料には、防災科学技術研究所及び気象庁のデータも使用。

---

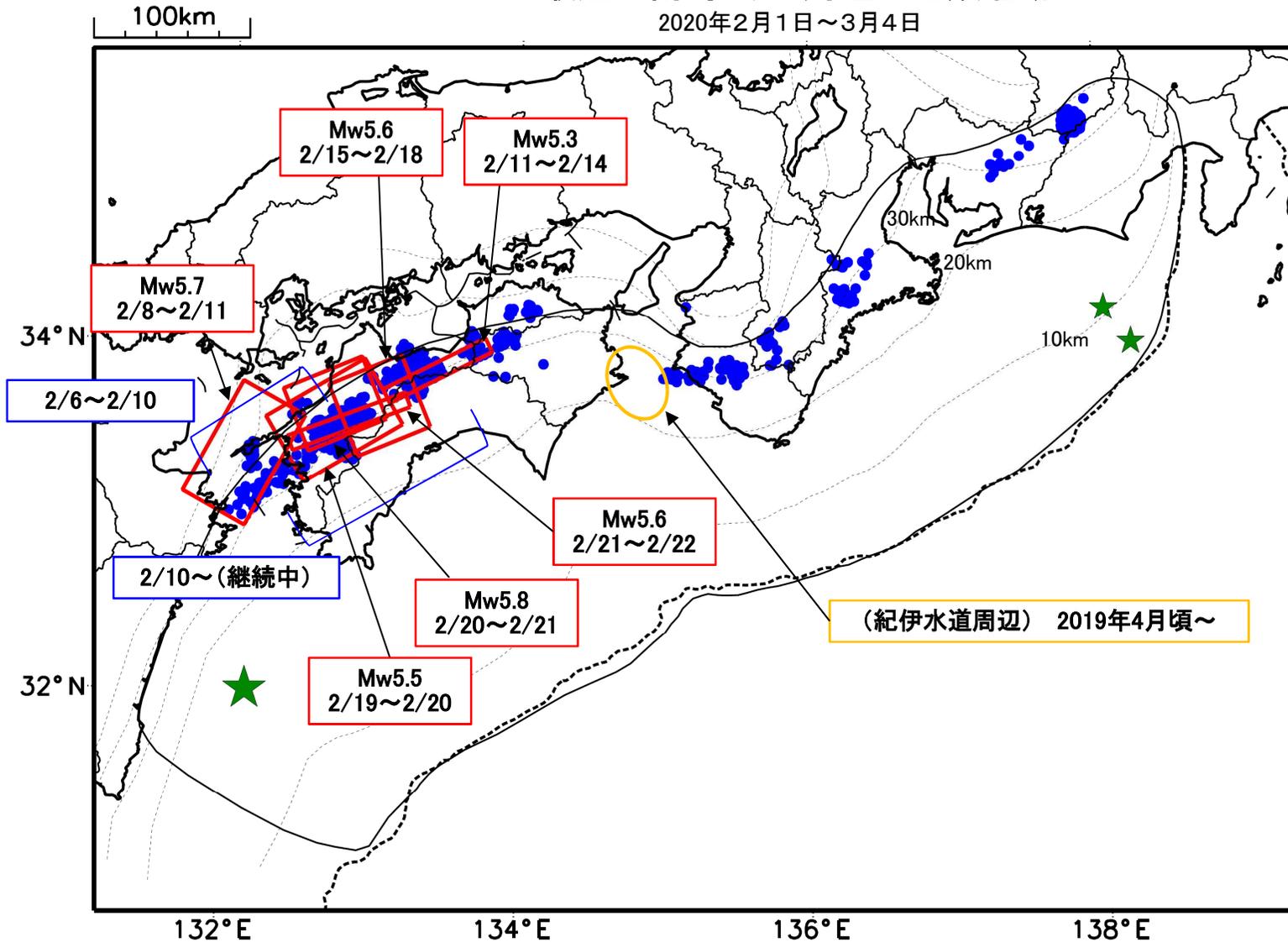
気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。本資料は今回開催した評価検討会、判定会で評価した、主に前回（令和2年2月7日）以降の調査結果を取りまとめたものです。

問合せ先：地震火山部 地震予知情報課 担当 宮岡

電話 03-3212-8341（内線 4576） FAX 03-3212-2807

# 最近の南海トラフ周辺の地殻活動

2020年2月1日～3月4日



- 緑(★)  
通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)
- 青(●)  
深部低周波地震(微動)
- 赤(□)  
短期的ゆっくりすべり
- 黄(○)  
長期的ゆっくりすべり

※地図中の点線は、Hirose et al.(2008), Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※M5.0以上の地震に吹き出しを付けている。

通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。  
 深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁の解析結果による。  
 短期的ゆっくりすべり.....【四国西部、四国中部から四国西部】産業技術総合研究所の解析結果による。  
 長期的ゆっくりすべり.....【紀伊水道周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

## 令和2年2月1日～令和2年3月4日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大 震度	発生場所
2/9	06:58	遠州灘	-	3.7	1	
2/22	20:47	遠州灘	-	3.7	1	
2/28	05:41	日向灘	20	4.0	2	

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
<p>■四国東部 2月5日～8日 2月14日～16日 2月21日～24日</p> <p>■四国中部 <b>2月10日～24日</b>・・・(2) 2月26日～27日 3月4日～(継続中)</p> <p>■四国西部 2月3日～4日 <b>2月6日～10日</b>・・・(1) <b>2月18日～29日</b> <b>3月2日～(継続中)</b> } ・・・(2)</p>	<p>■紀伊半島北部 2月5日 2月8日 3月1日 3月3日～(継続中)</p> <p>■紀伊半島中部 2月5日～6日 2月9日 2月23日～24日</p> <p>■紀伊半島西部 1月30日～2月1日 2月12日～14日 2月16日～19日 2月22日～23日 2月25日</p>	<p>2月20日～23日 2月26日～27日 3月1日～2日</p>

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

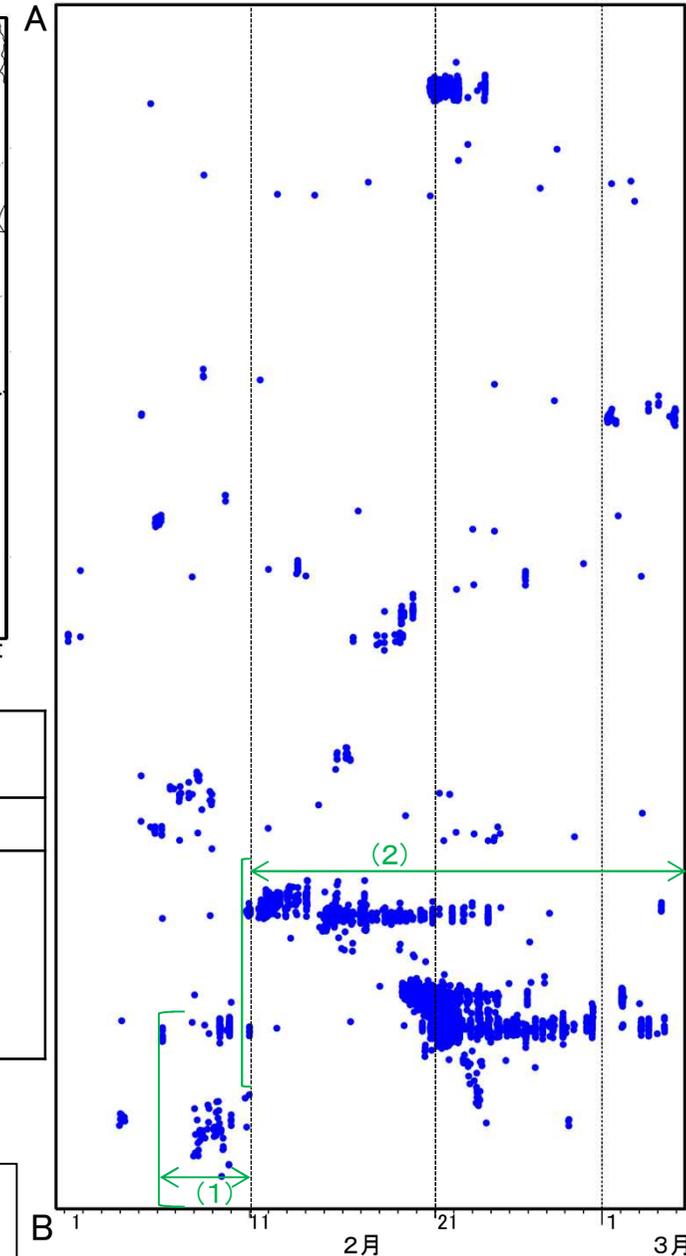
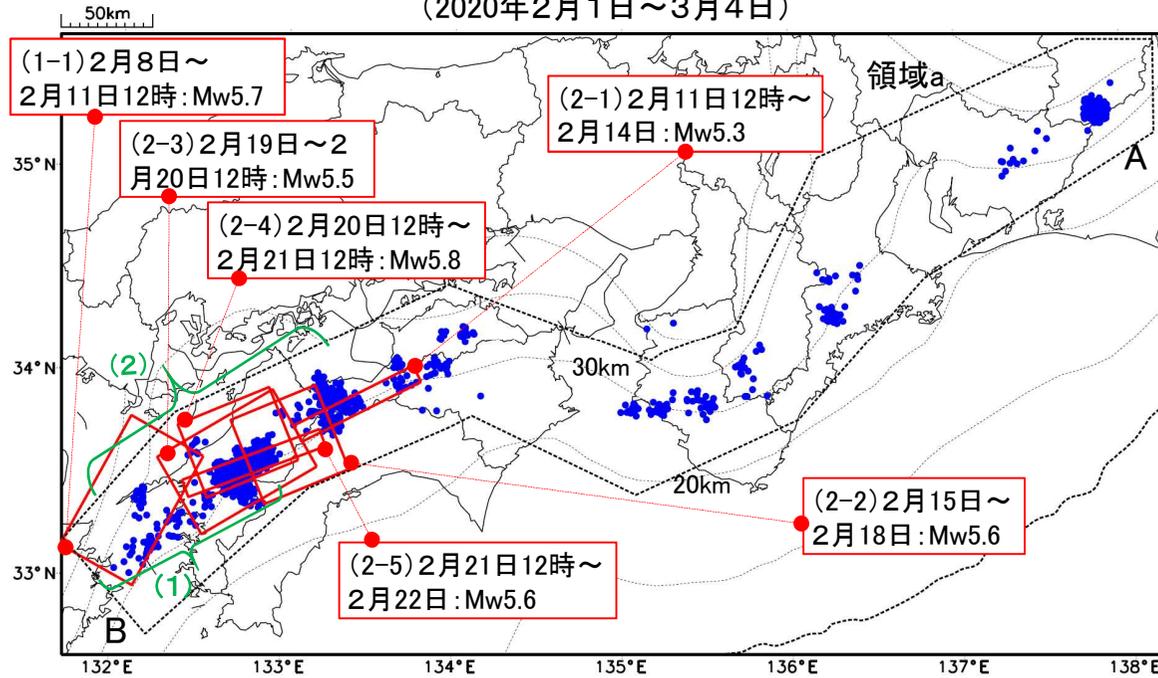
※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。

※上の表中（1）（2）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

# 深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

深部低周波地震(微動)の震央分布図と短期的ゆっくりすべりの断層モデル  
(2020年2月1日～3月4日)

領域a(点線矩形)内の深部低周波地震(微動)の時空間分布図(A-B投影)



主な深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

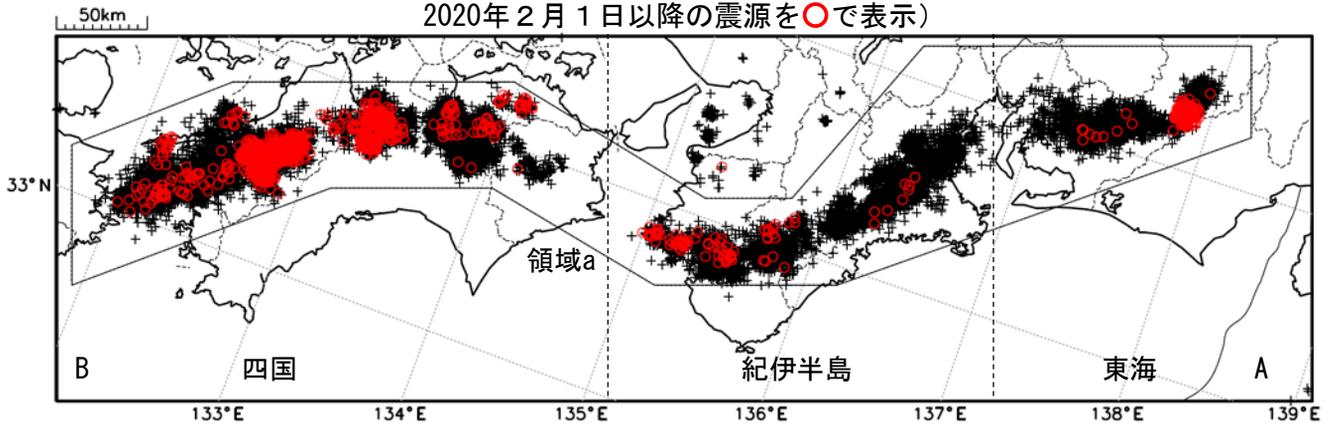
活動場所		深部低周波地震(微動)活動の活動の期間	短期的ゆっくりすべりの期間と規模
(1)	四国西部	2月6日～2月10日	(1-1)2月8日～2月11日12時:Mw5.7
(2)	四国中部から四国西部	2月10日～継続中	(2-1)2月11日12時～2月14日:Mw5.3 (2-2)2月15日～2月18日:Mw5.6 (2-3)2月19日～2月20日12時:Mw5.5 (2-4)2月20日12時～2月21日12時:Mw5.8 (2-5)2月21日12時～2月22日:Mw5.6

●: 深部低周波地震(微動)の震央(気象庁の解析結果を示す)  
 □: 短期的ゆっくりすべりの断層モデル(産業総合技術研究所の解析結果を示す)  
 点線は、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるフィリピン海プレート上面の深さ(10kmごとの等深線)を示す。

# 深部低周波地震（微動）活動（2010年3月1日～2020年2月29日）

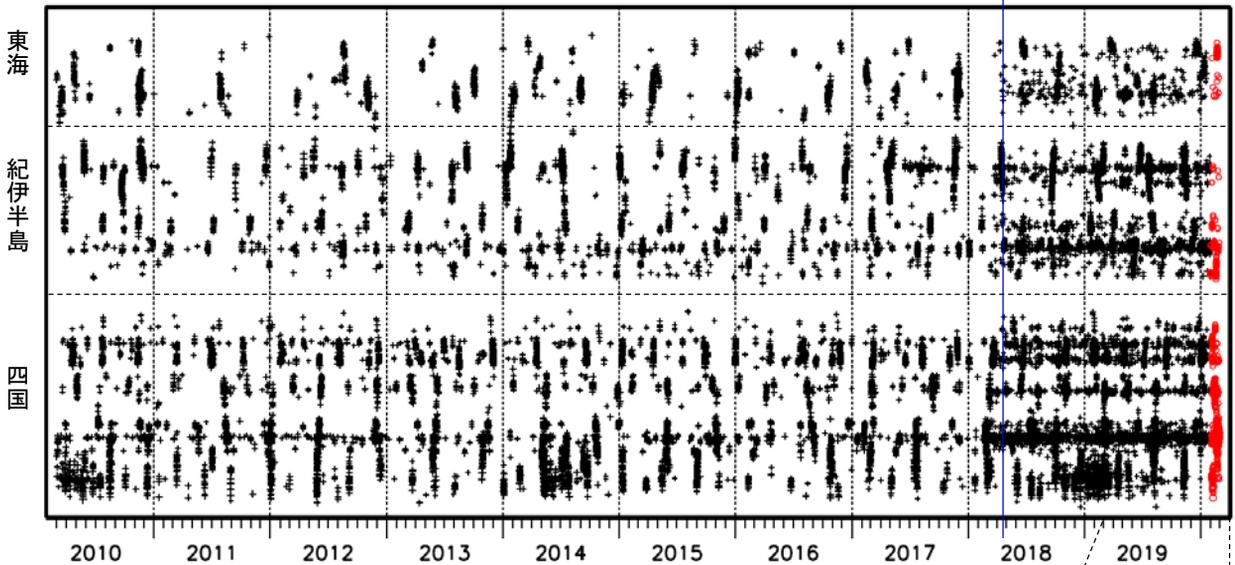
深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図（2010年3月1日～2020年2月29日：過去10年間  
2020年2月1日以降の震源を○で表示）

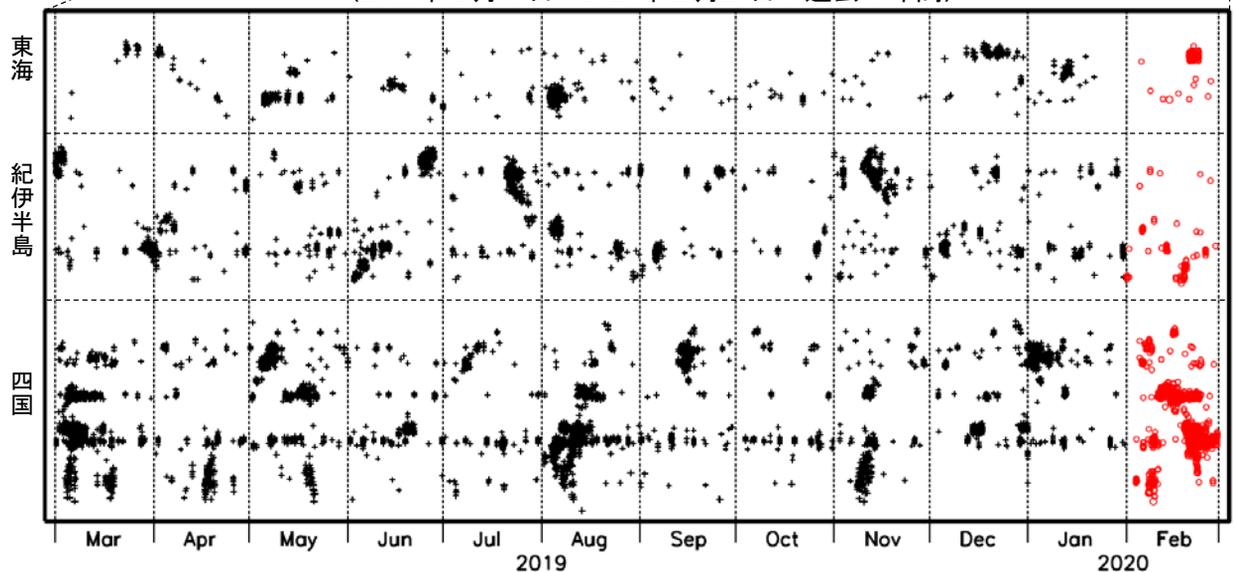


上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）

※2018年3月22日



（2019年3月1日～2020年2月29日：過去1年間）



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更（Matched Filter法の導入）により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

# 四国の深部低周波地震(微動)活動とゆっくりすべり

## 【四国西部】

(A)2月6日から10日にかけて、四国西部で深部低周波地震を観測した。深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

## 【四国中部から四国西部】

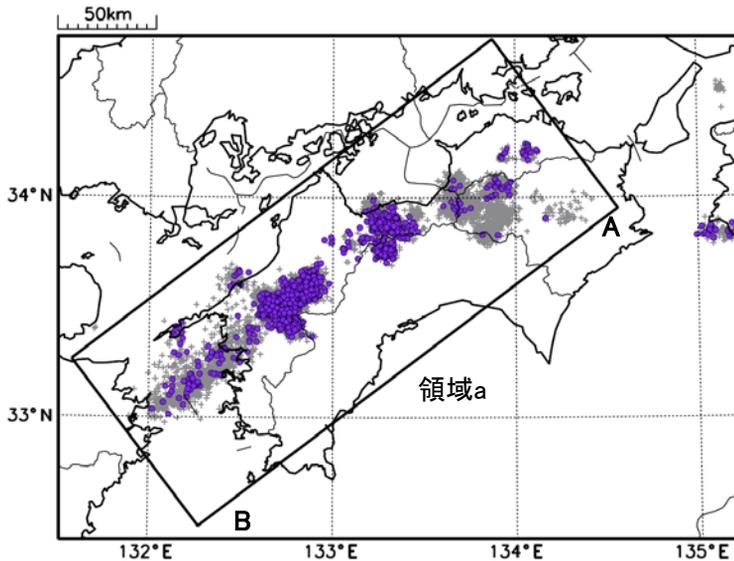
(B)2月10日以降、四国中部から四国西部で深部低周波地震(微動)を観測している。10日に四国中部で始まった活動は、14日頃から次第に南西へと拡大し、19日頃からは四国西部で主に活動がみられている。深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

### 震央分布図

(2018年4月1日～2020年2月29日、深さ0～60km、Mすべて)

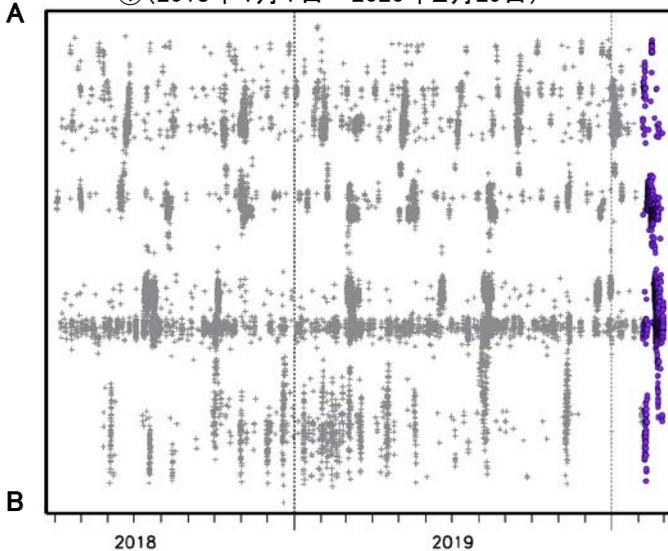
灰:2018年4月1日～2020年2月5日、紫:2020年2月6日～

※活動期間が長く、また広範囲であるため、本頁では2月6日以降の活動を一色で示している。次頁に、2月6日から10日にかけての四国西部の活動、2月10日以降の四国中部から四国西部にかけての活動に分けて、活動域・活動期間の詳細を示す。

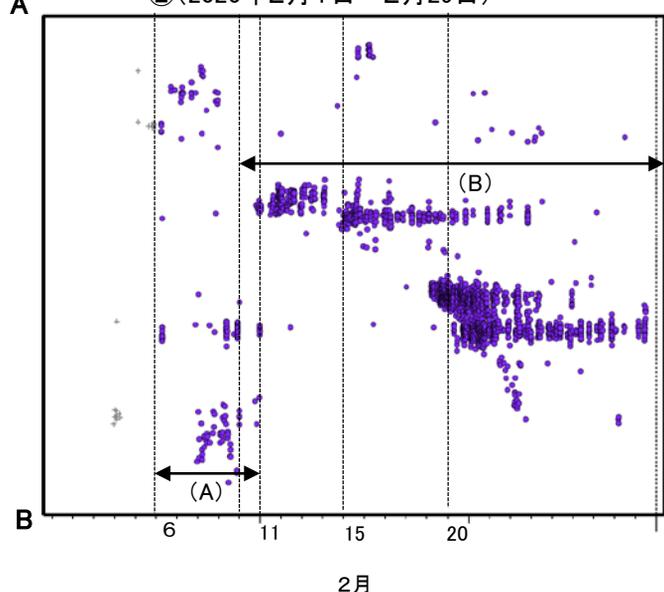


### 震央分布図の領域a内の時空間分布図(A-B投影)

①(2018年4月1日～2020年2月29日)



②(2020年2月1日～2月29日)

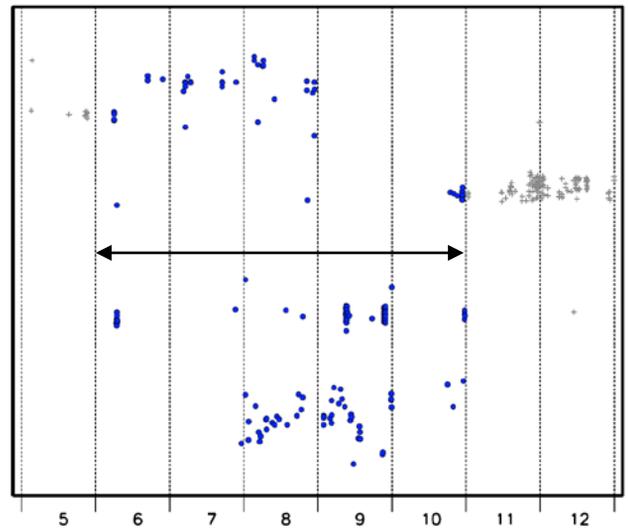
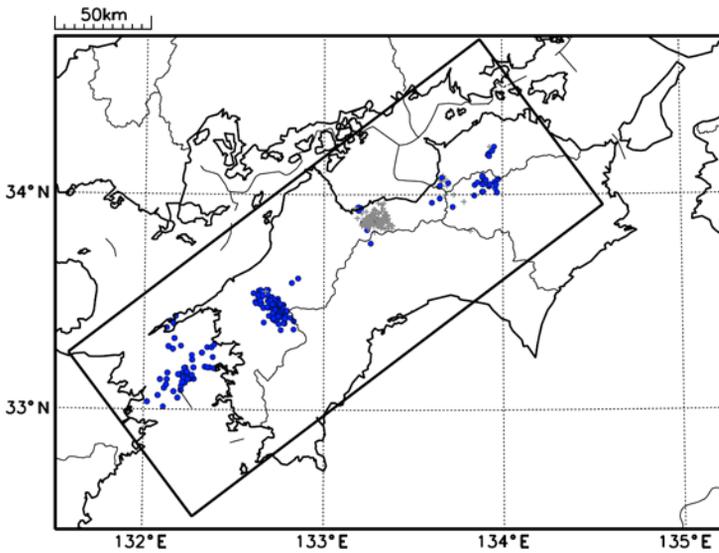


## 2月6日から10日にかけての四国西部の活動

### 震央分布図

(2020年2月5日～2020年2月12日、深さ0～60km、Mすべて)

灰: 2020年2月5日、2月11日～12日、青: 2020年2月6日～2月10日



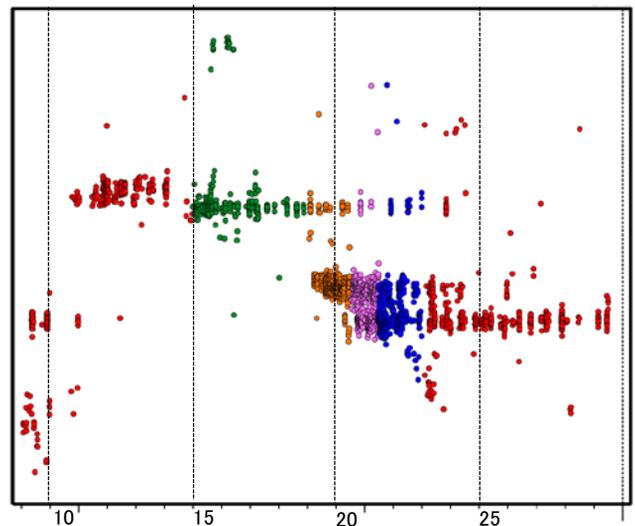
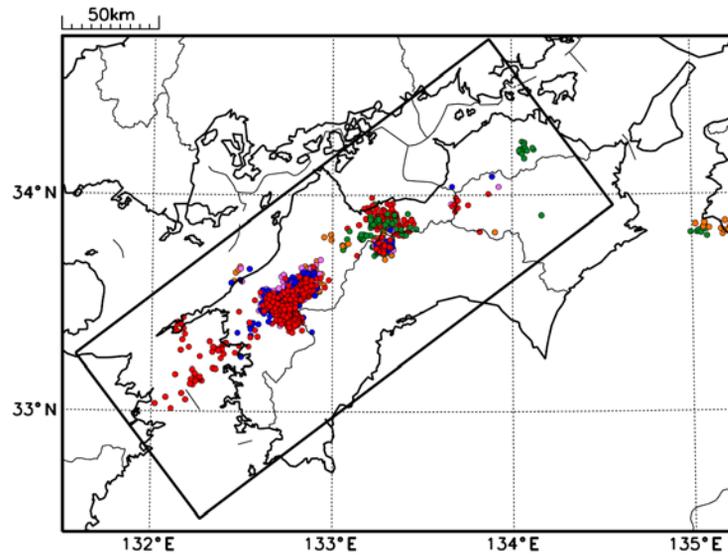
## 2月10日以降の四国中部から四国西部にかけての活動

### 震央分布図

(2020年2月9日～2020年2月29日、深さ0～60km、Mすべて)

赤: 2月9日～2月14日、2月23日～、緑: 2月15日～2月18日、

橙: 2月19日～2月20日12時、桃: 2月20日12時～2月21日12時、青: 2月21日12時～2月22日



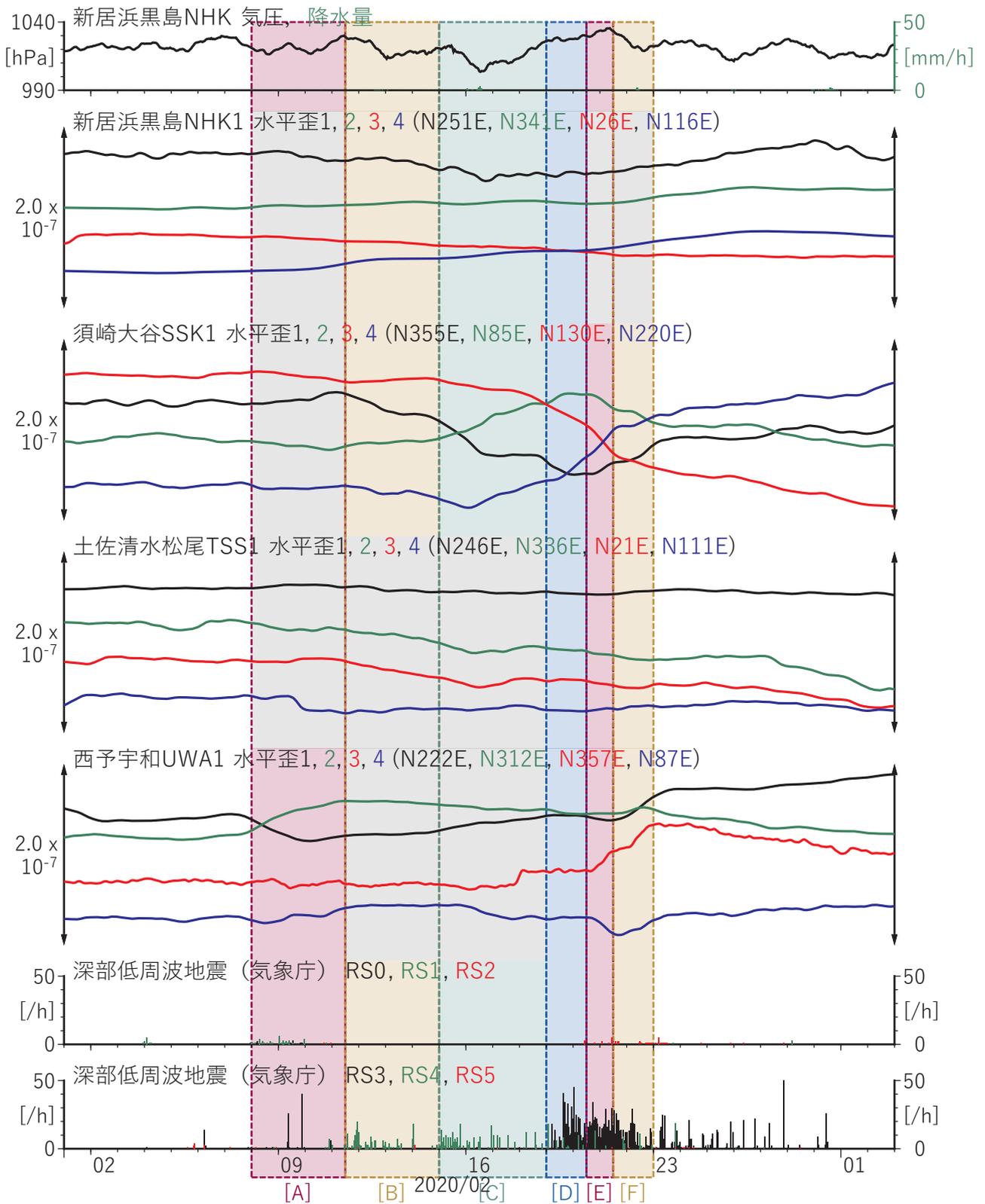


図2 四国地方における歪観測結果 (2020/02/01 00:00 - 2020/03/03 00:00 (JST))

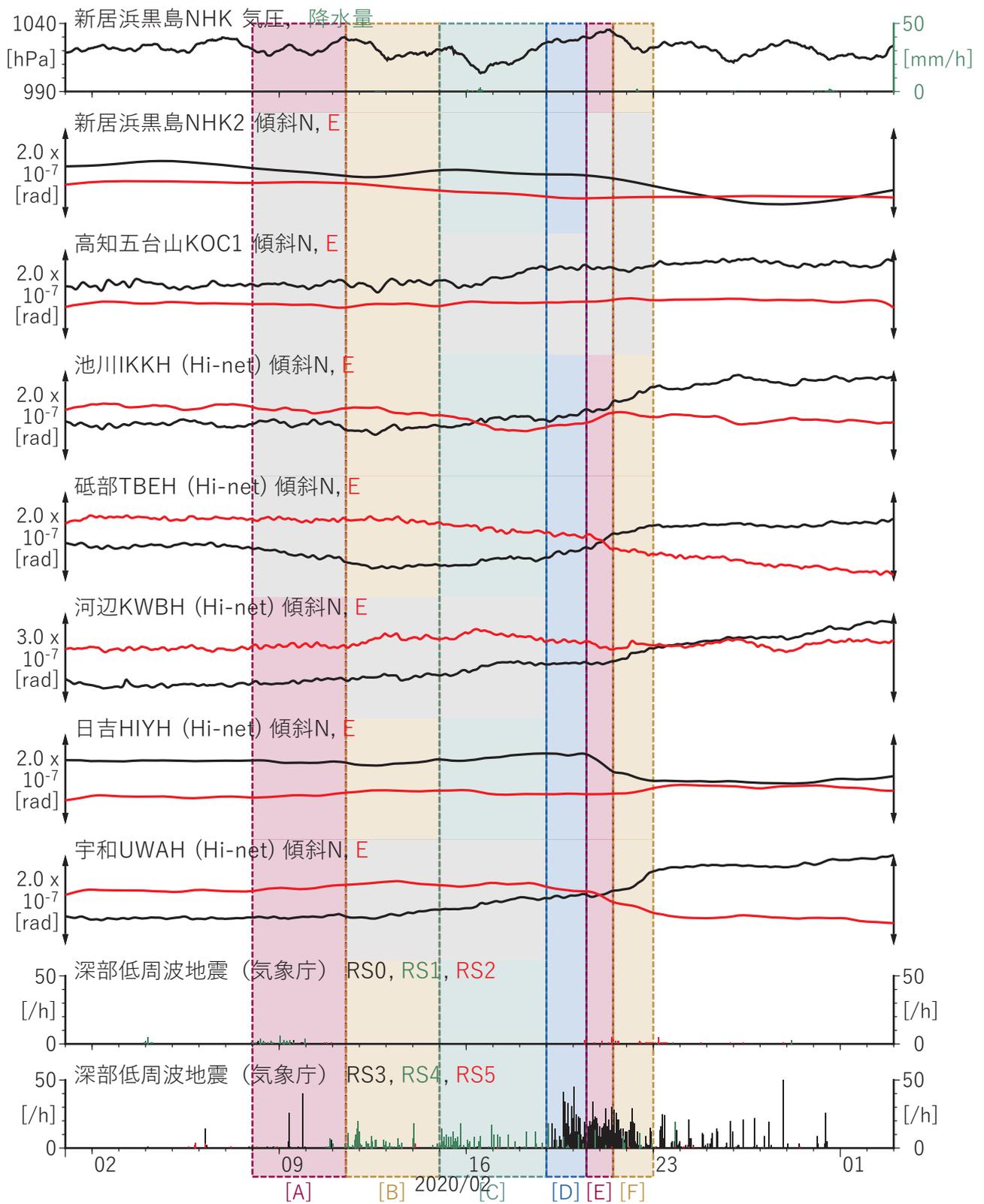


図3 四国地方における傾斜観測結果 (2020/02/01 00:00 - 2020/03/03 00:00 (JST))

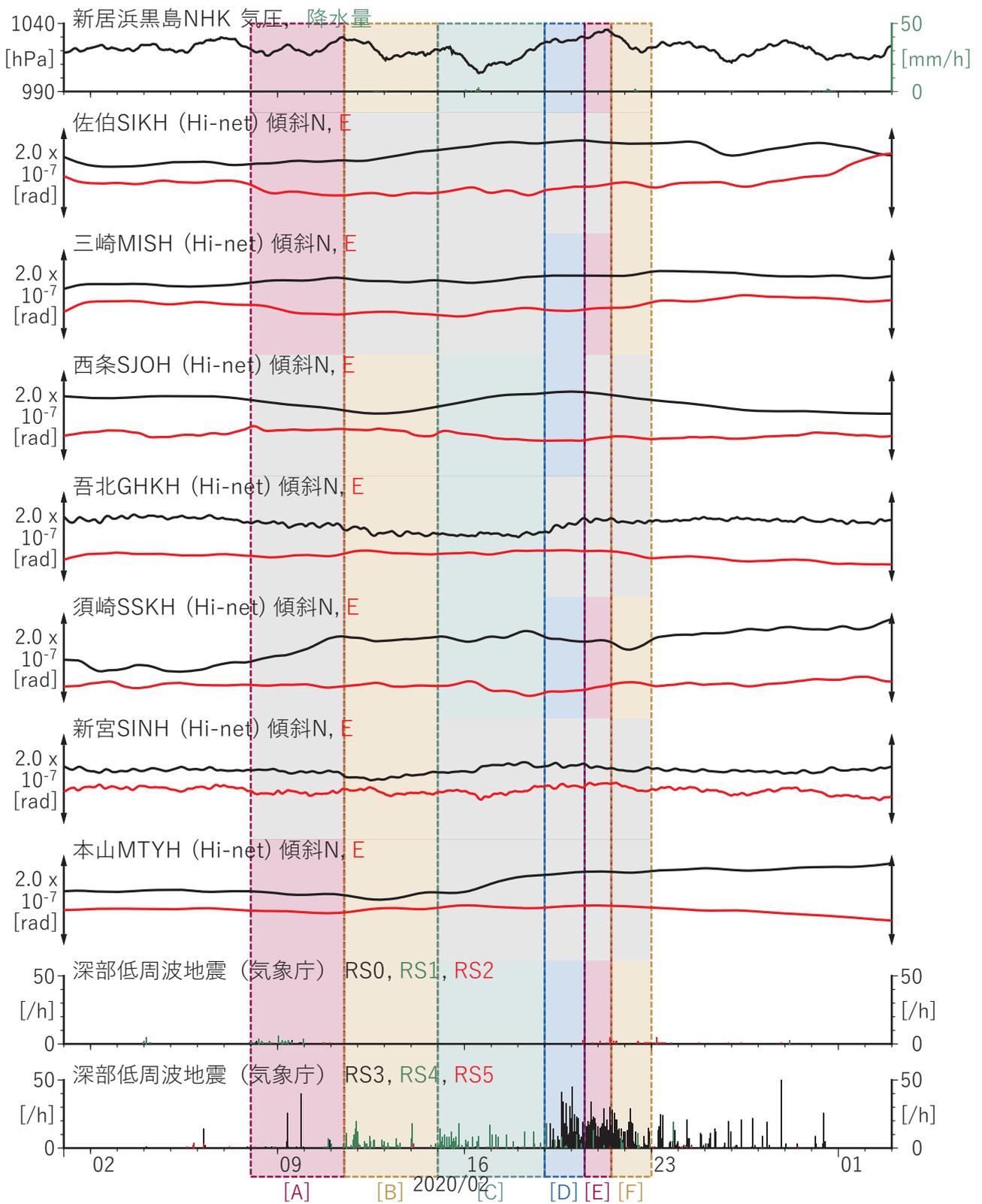
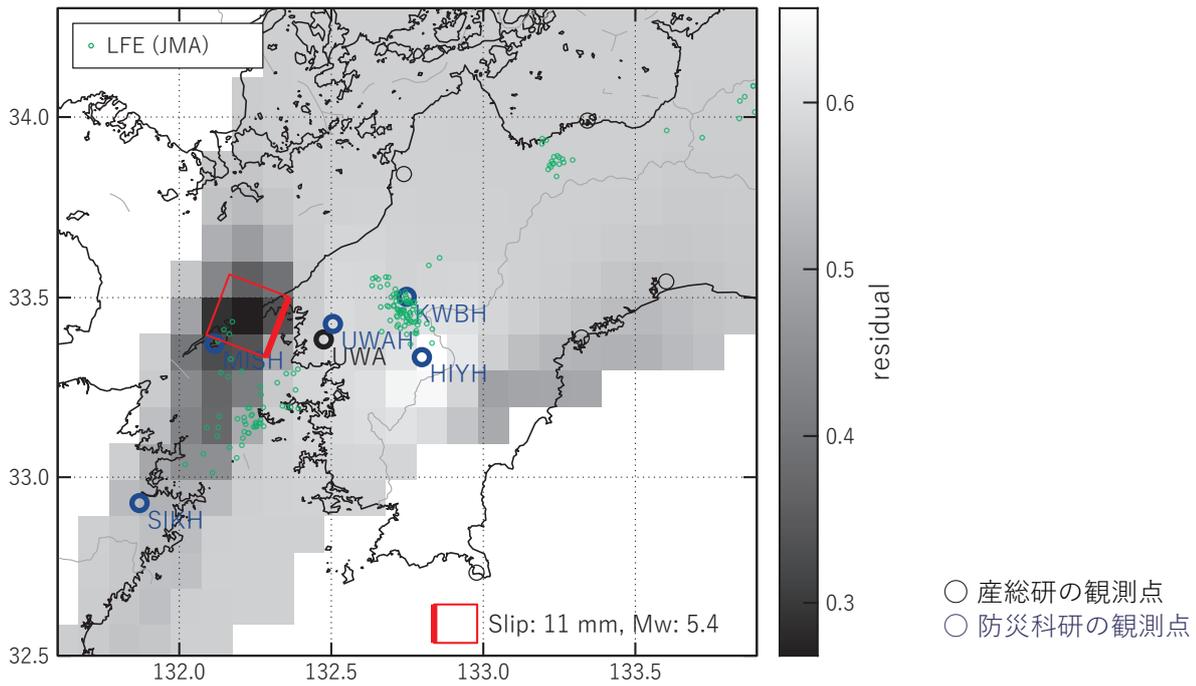


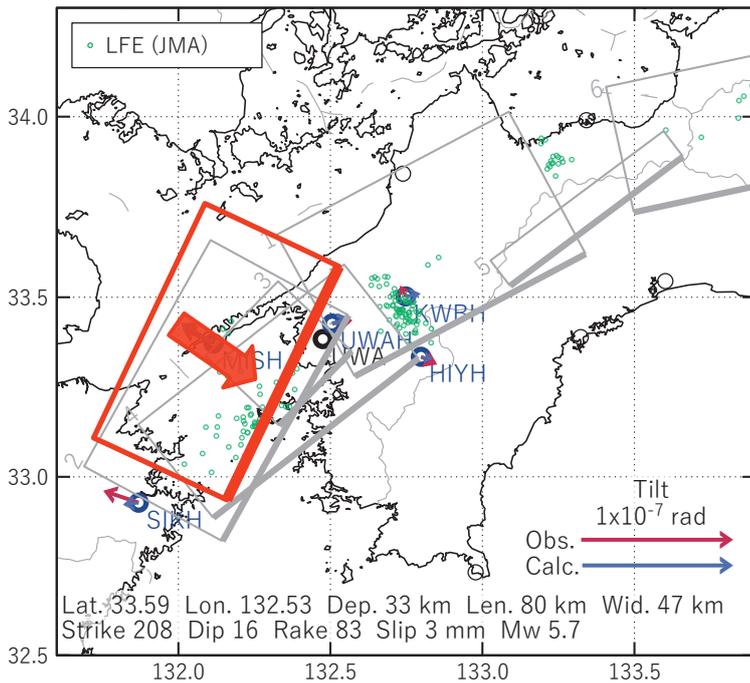
図4 四国地方における傾斜観測結果 (2020/02/01 00:00 - 2020/03/03 00:00 (JST))

[A] 2020/02/08-11AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

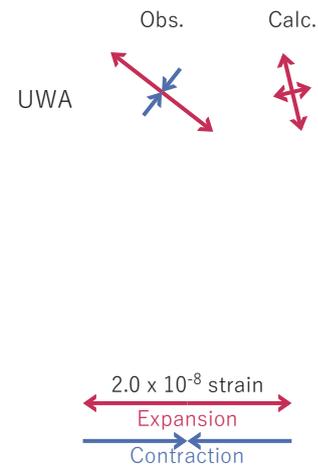


図5 2020/02/08-11AMの歪・傾斜変化 (図2-4[A]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

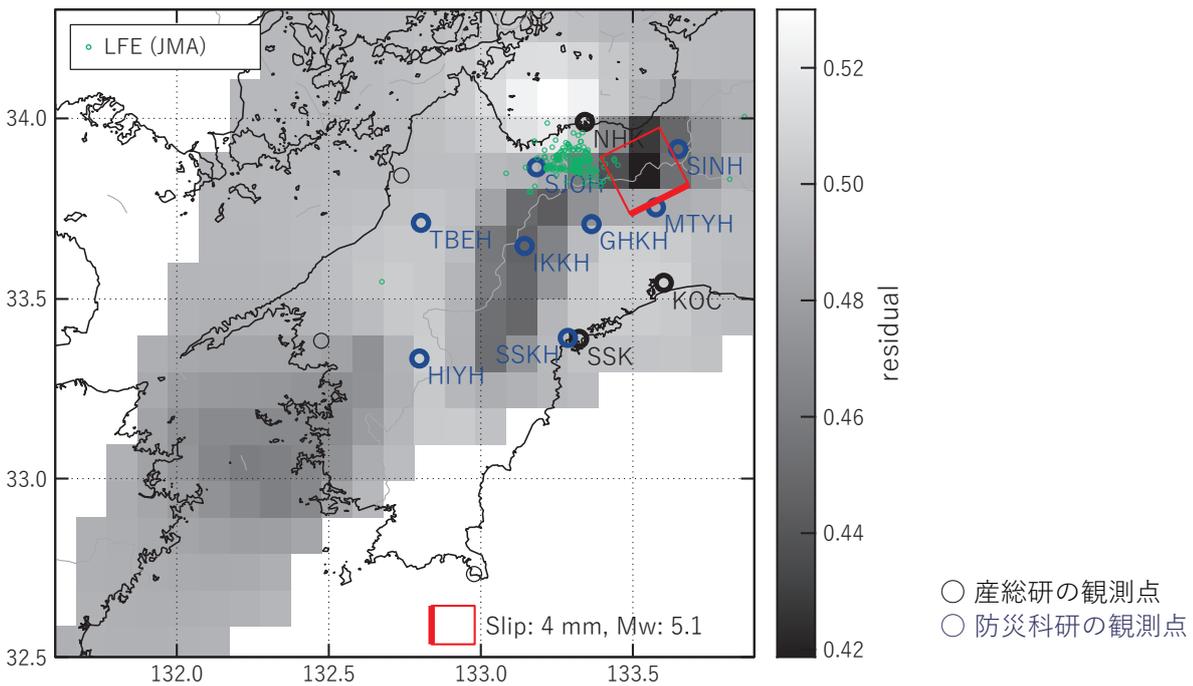
1: 2019/08/11PM-13 (Mw6.0), 2: 2019/11/08-09AM (Mw5.7), 3: 2019/11/09PM-10 (Mw5.7)

4: 2019/11/11West (Mw5.6), 5: 2019/11/11East (Mw5.2), 6: 2020/01/01-03 (Mw5.6)

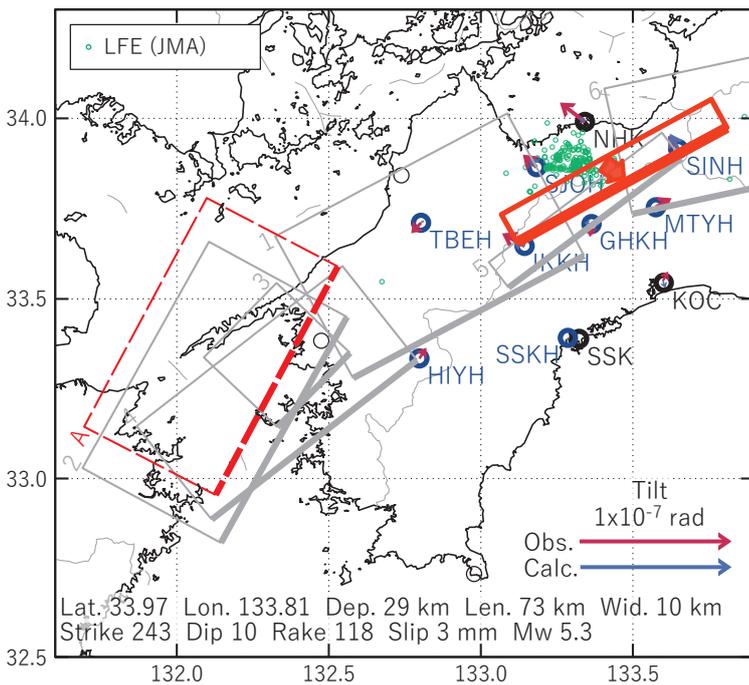
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2020/02/11PM-14

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

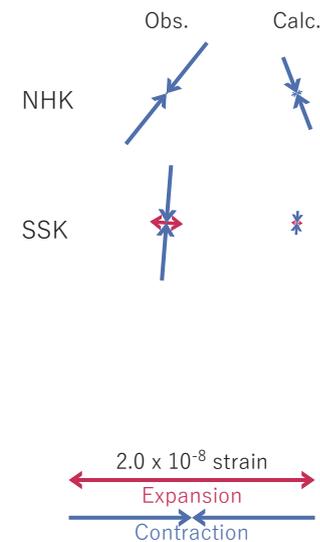


図6 2020/02/11PM-14の歪・傾斜変化（図2-4[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/08/11PM-13 (Mw6.0), 2: 2019/11/08-09AM (Mw5.7), 3: 2019/11/09PM-10 (Mw5.7)

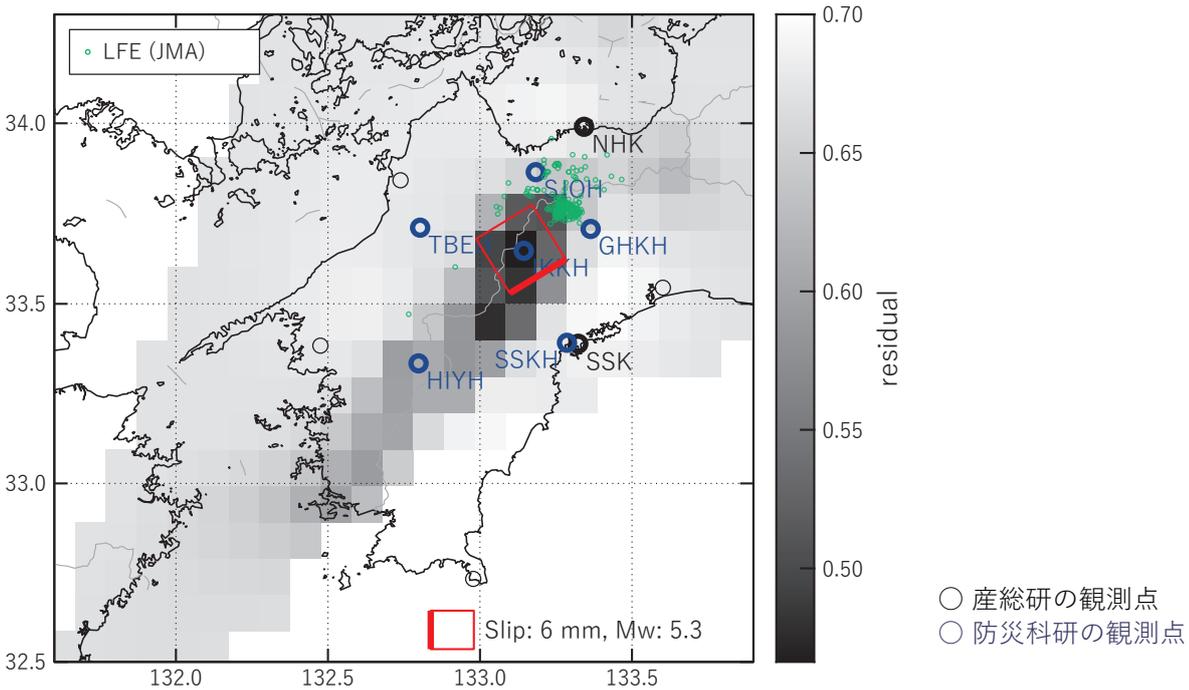
4: 2019/11/11West (Mw5.6), 5: 2019/11/11East (Mw5.2), 6: 2020/01/01-03 (Mw5.6)

A: 2020/02/08-11AM (Mw5.7)

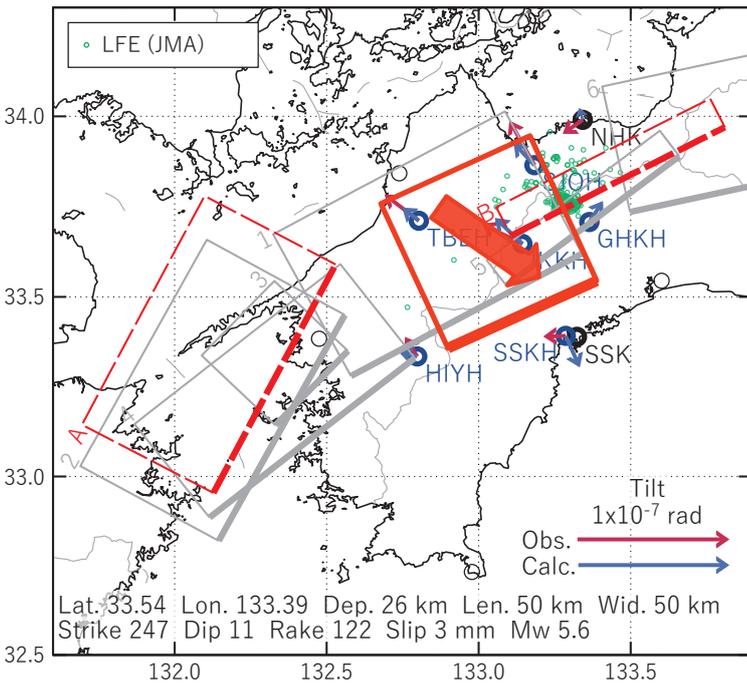
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[C] 2020/02/15-18

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

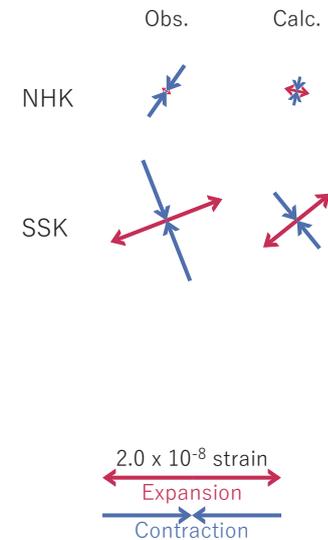


図7 2020/02/15-18の歪・傾斜変化 (図2-4[C]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/08/11PM-13 (Mw6.0), 2: 2019/11/08-09AM (Mw5.7), 3: 2019/11/09PM-10 (Mw5.7)

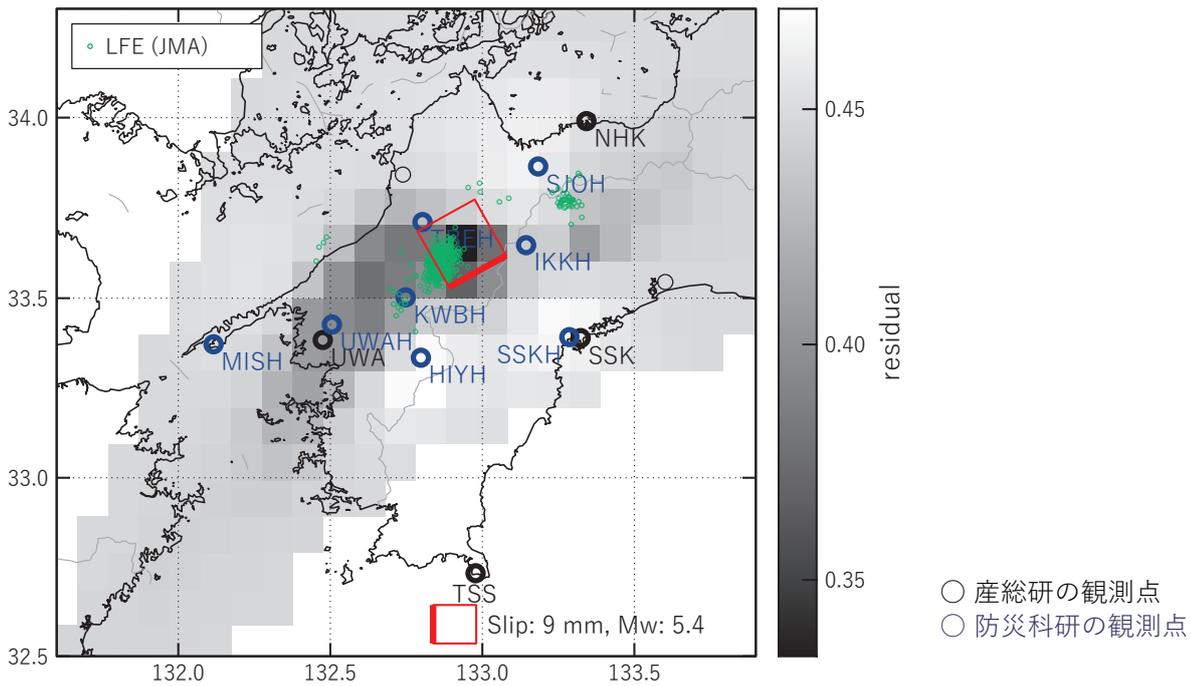
4: 2019/11/11West (Mw5.6), 5: 2019/11/11East (Mw5.2), 6: 2020/01/01-03 (Mw5.6)

A: 2020/02/08-11AM (Mw5.7), B: 2020/02/11PM-14 (Mw5.3)

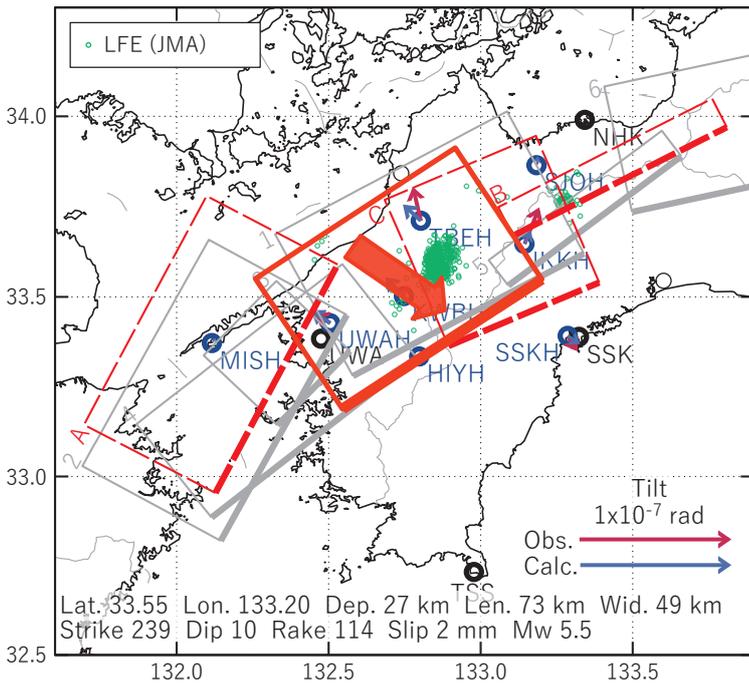
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[D] 2020/02/19-20AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

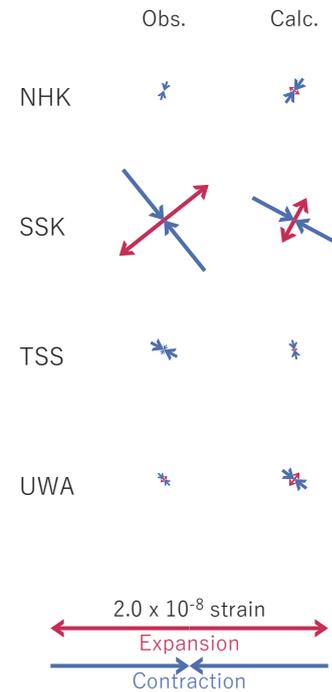


図8 2020/02/19-20AMの歪・傾斜変化 (図2-4[D]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/08/11PM-13 (Mw6.0), 2: 2019/11/08-09AM (Mw5.7), 3: 2019/11/09PM-10 (Mw5.7)

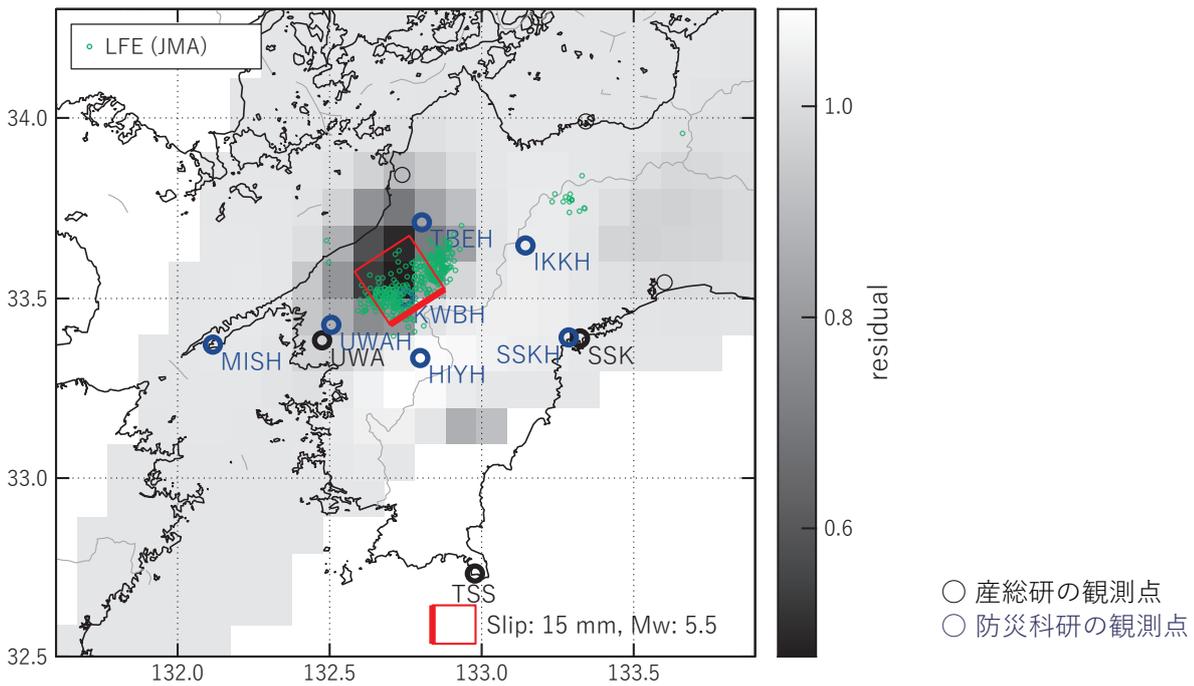
4: 2019/11/11West (Mw5.6), 5: 2019/11/11East (Mw5.2), 6: 2020/01/01-03 (Mw5.6)

A: 2020/02/08-11AM (Mw5.7), B: 2020/02/11PM-14 (Mw5.3), C: 2020/02/15-18 (Mw5.6)

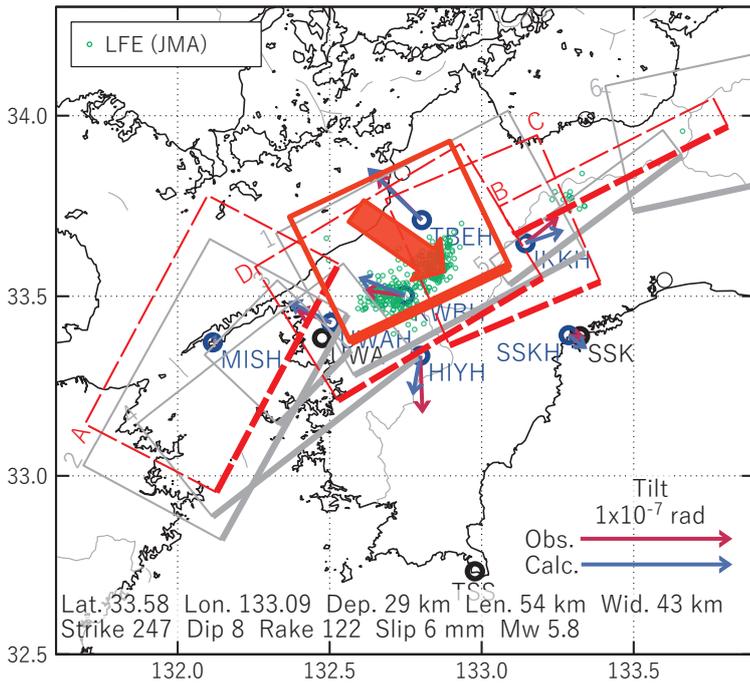
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[E] 2020/02/20PM-21AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

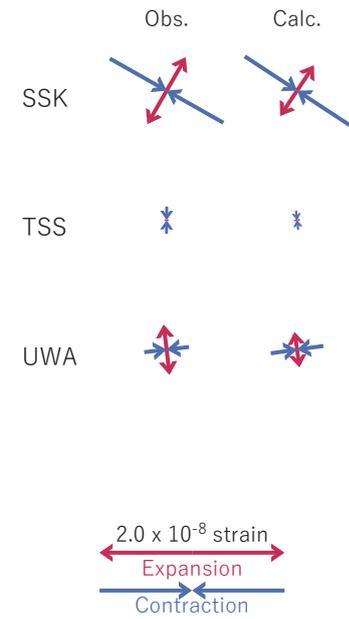


図9 2020/02/20PM-21AMの歪・傾斜変化 (図2-4[E]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/08/11PM-13 (Mw6.0), 2: 2019/11/08-09AM (Mw5.7), 3: 2019/11/09PM-10 (Mw5.7)

4: 2019/11/11West (Mw5.6), 5: 2019/11/11East (Mw5.2), 6: 2020/01/01-03 (Mw5.6)

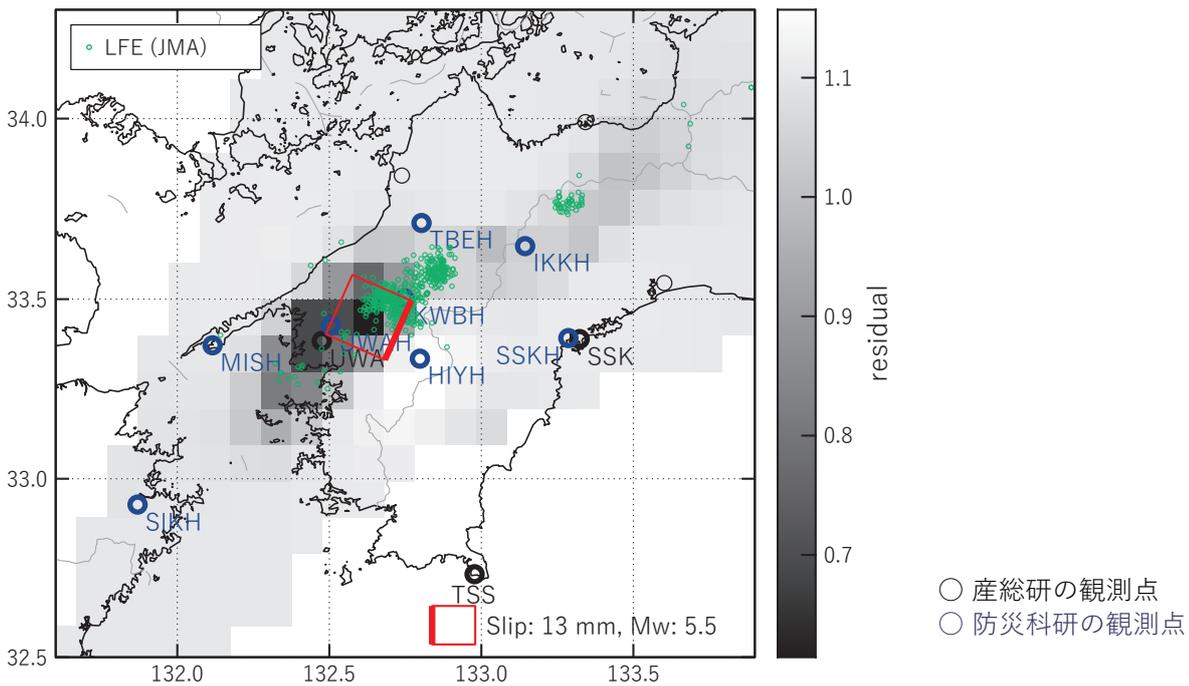
A: 2020/02/08-11AM (Mw5.7), B: 2020/02/11PM-14 (Mw5.3), C: 2020/02/15-18 (Mw5.6)

D: 2020/02/19-20AM (Mw5.5)

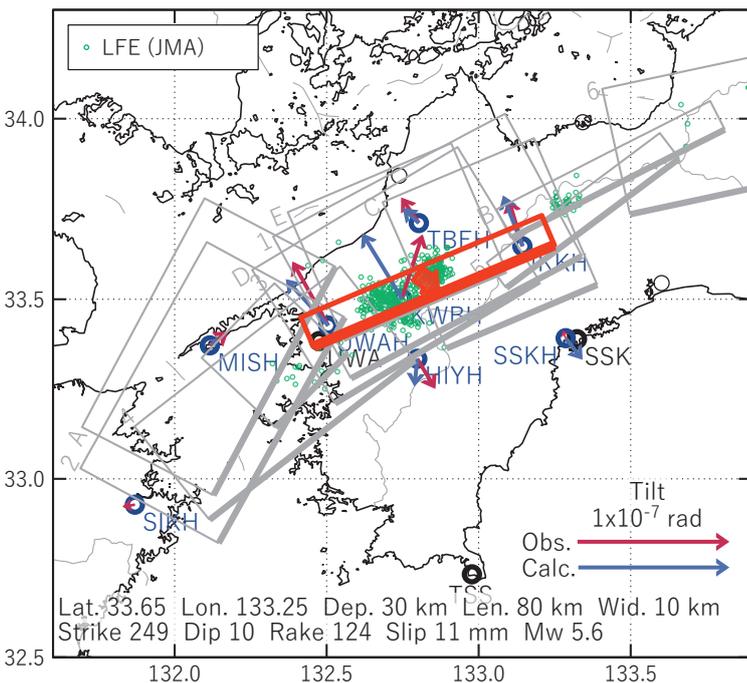
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[F] 2020/02/21PM-22

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

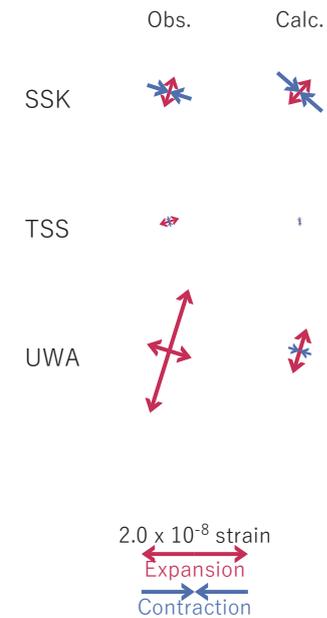


図10 2020/02/21PM-22の歪・傾斜変化 (図2-4[F]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2019/08/11PM-13 (Mw6.0), 2: 2019/11/08-09AM (Mw5.7), 3: 2019/11/09PM-10 (Mw5.7)

4: 2019/11/11West (Mw5.6), 5: 2019/11/11East (Mw5.2), 6: 2020/01/01-03 (Mw5.6)

A: 2020/02/08-11AM (Mw5.7), B: 2020/02/11PM-14 (Mw5.3), C: 2020/02/15-18 (Mw5.6)

D: 2020/02/19-20AM (Mw5.5), E: 2020/02/20PM-21AM (Mw5.8)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

# 四国西部の短期的スロースリップ活動状況 (2020年2月)

- ・ 四国中西部を活動域とする短期的スロースリップイベント ( $M_w$  6.1)
- ・ 2019年3月 ( $M_w$  6.0) 以来約1年ぶり

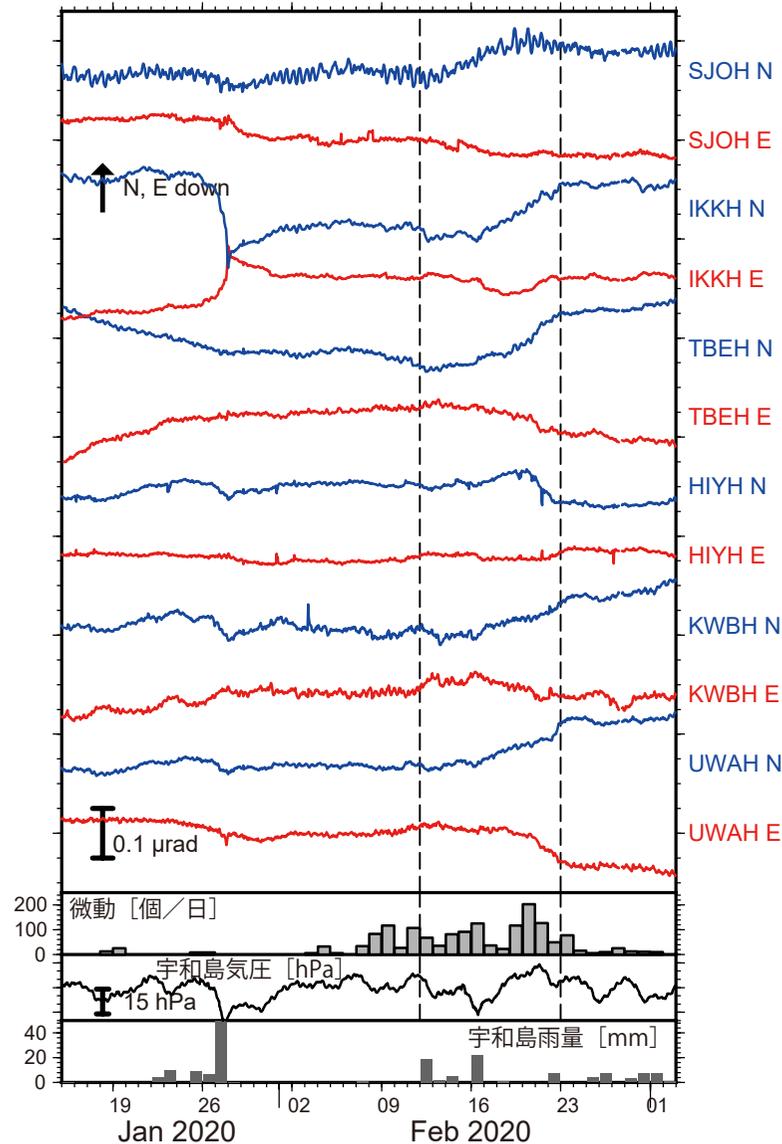


図1: 2020年1月15日~3月2日の傾斜時系列。上方向への変化が北・東下がりの傾斜変動を表し、BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答成分を除去した。2月12日~22日の傾斜変化ベクトルを図2に示す。四国西部での微動活動度・気象庁宇和島観測点の気圧・雨量をあわせて示す。

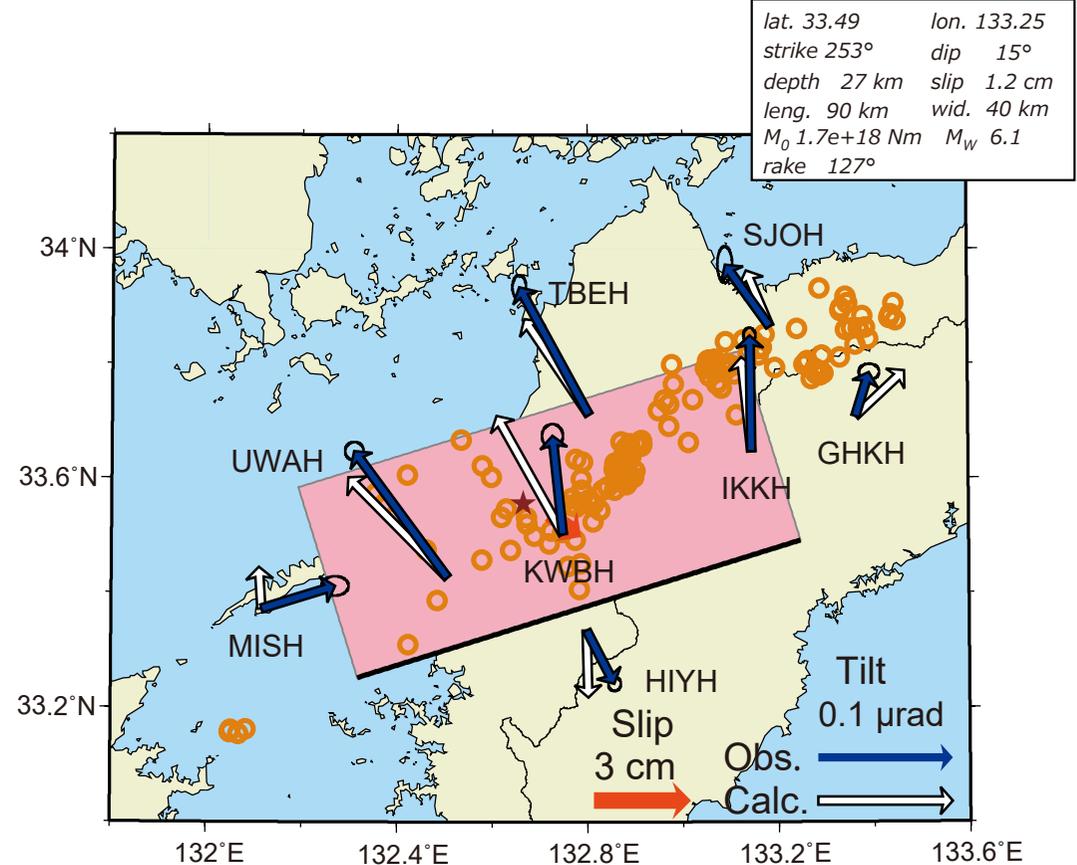
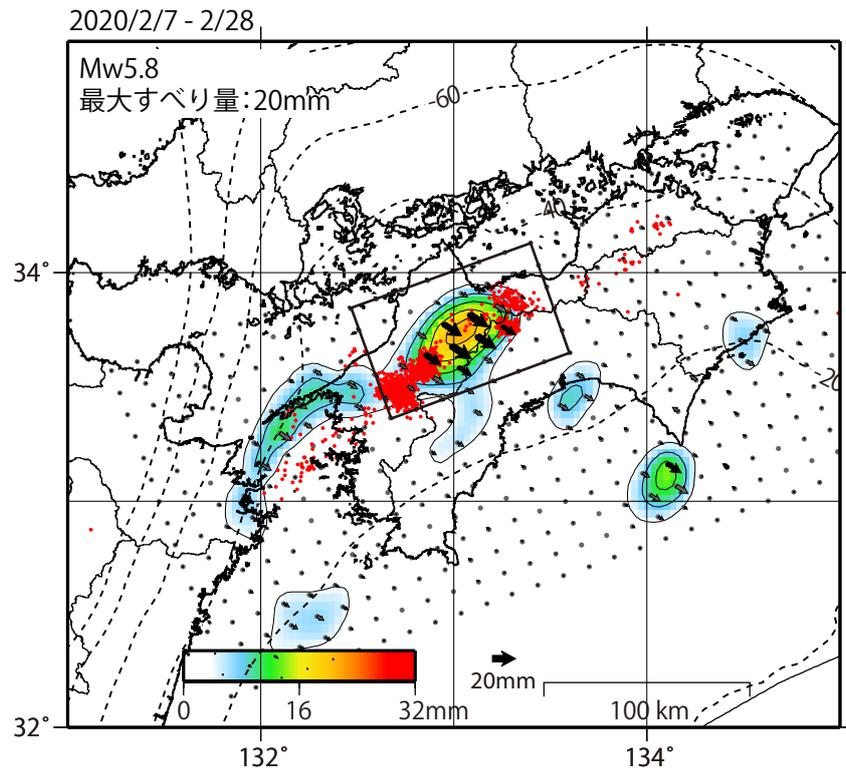


図2: 2月12日~22日に観測された傾斜変化ベクトル(青矢印)、推定されたスロースリップイベントの断層モデル(赤矩形・矢印)、モデルから計算される傾斜変化ベクトル(白抜き矢印)を示す。1時間ごとの微動エネルギーの重心位置(橙丸)、深部超低周波地震の震央(茶星印)もあわせて示す。すべり角はプレート相対運動方向に固定している。

謝辞

気象庁のWEBページで公開されている気象データを使用させて頂きました。記して感謝いたします。

GNSSデータから推定された  
四国西部の深部低周波微動と同期したスロースリップ(暫定)

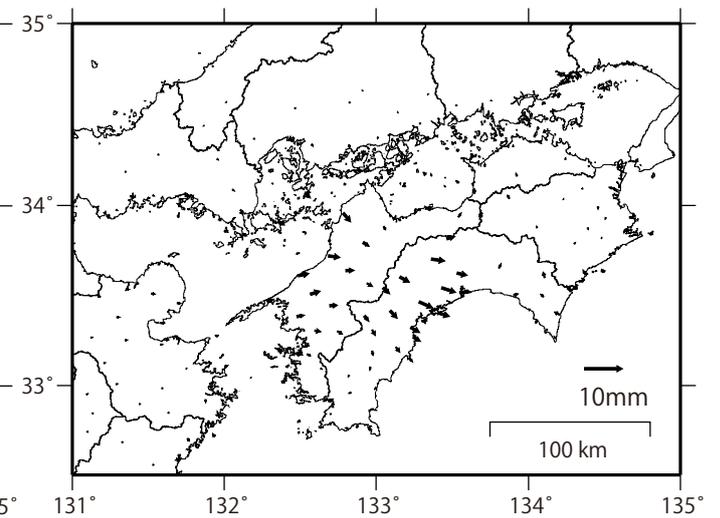
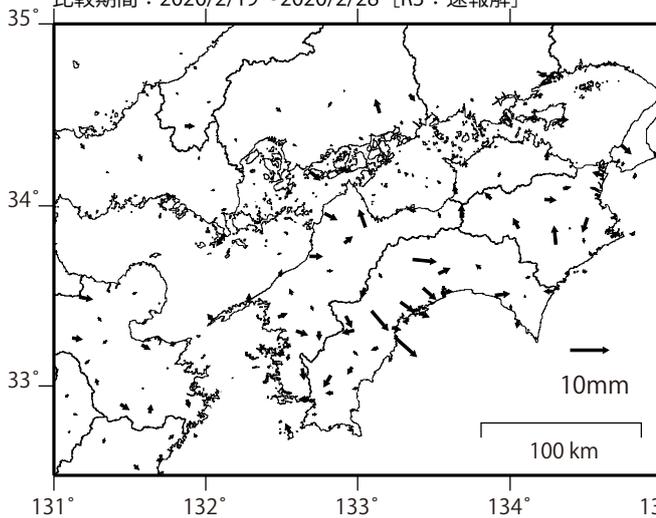


推定したすべり量が標準偏差( $\sigma$ )の3倍以上のグリッドを黒色表示している。

観測

計算

基準期間：2020/1/29～2020/2/7 [F3：最終解]  
比較期間：2020/2/19～2020/2/28 [R3：速報解]



解析に使用した全観測点の座標時系列から  
共通に含まれる時間変化成分は取り除いている。

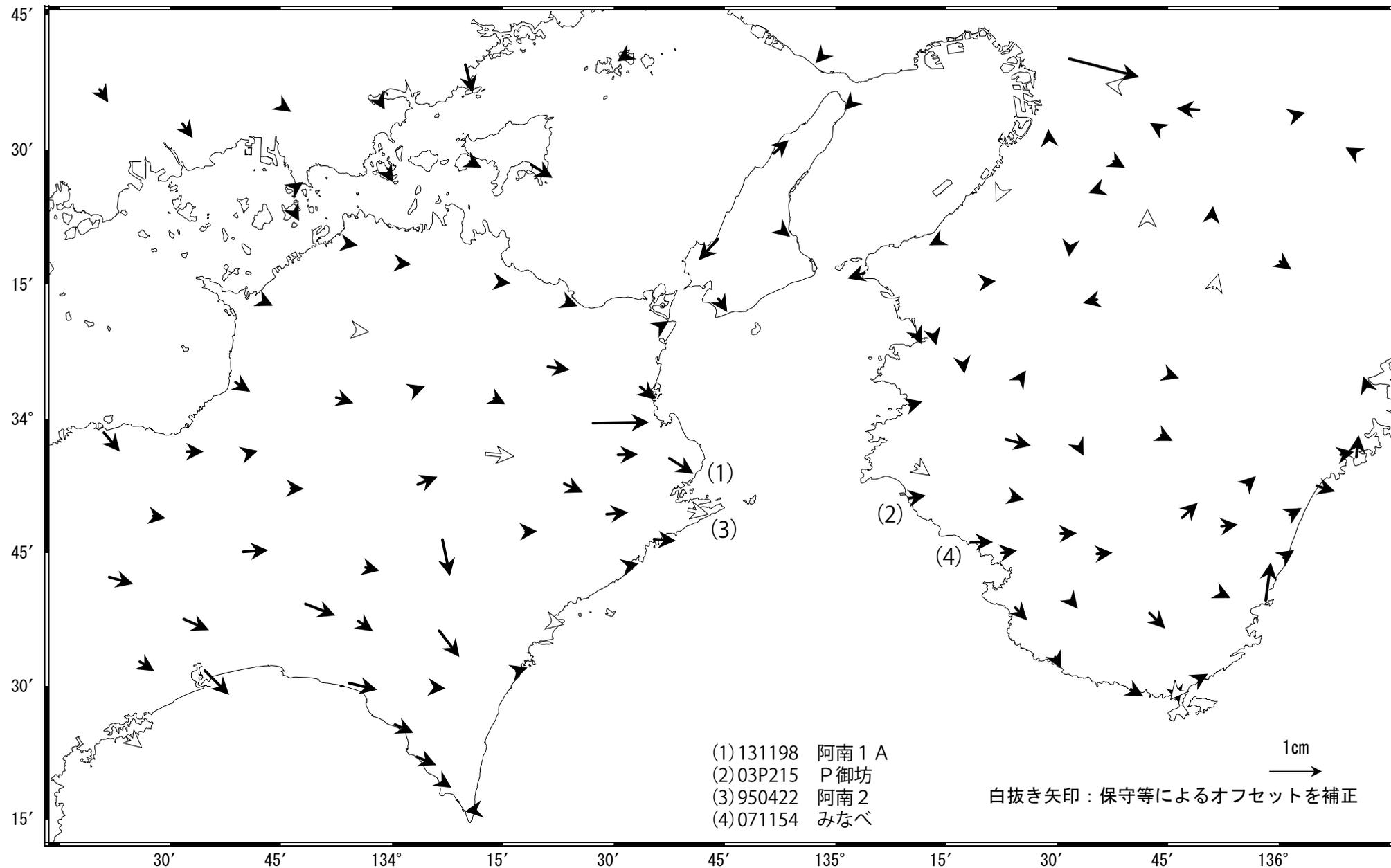
解析に使用した観測点の範囲：概ね北緯32～34.6°、東経131～134.8°  
データ：F3解(2019/12/01 - 2020/2/15)+R3解(2020/2/16 - 2/28)  
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1  
モーメント計算範囲：上段の図の黒枠内側  
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)  
赤丸：低周波地震(気象庁一元化震源)  
コンター間隔：4mm  
固定局：三隅

# 紀伊半島西部・四国東部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間: 2019/03/29~2019/04/04 [F3: 最終解]

比較期間: 2020/02/15~2020/02/21 [R3: 速報解]

計算期間: 2017/01/01~2017/12/31



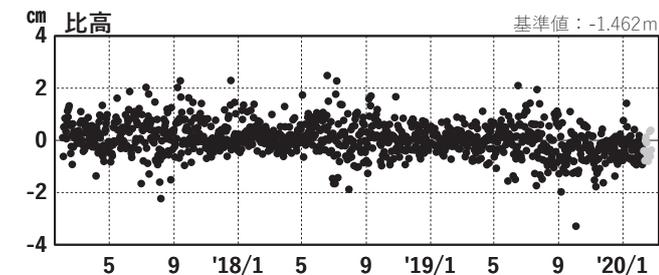
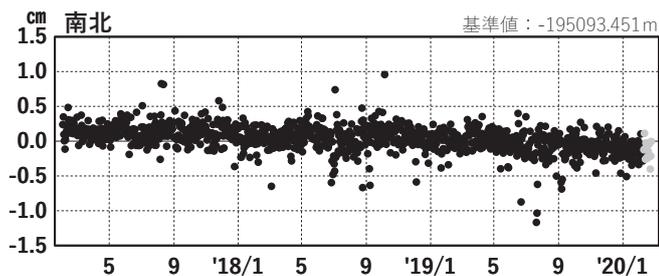
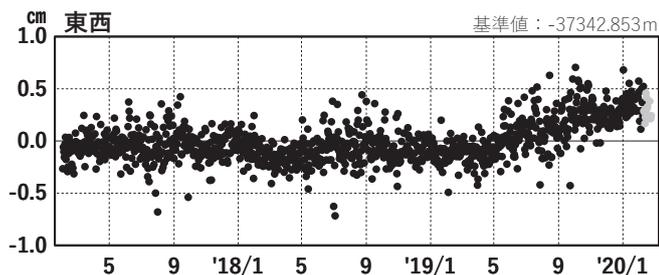
# 紀伊半島西部・四国東部 G N S S 連続観測時系列

## 1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

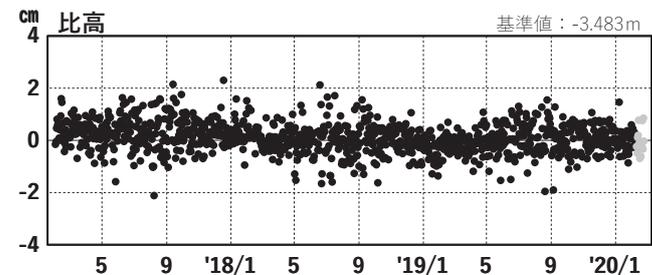
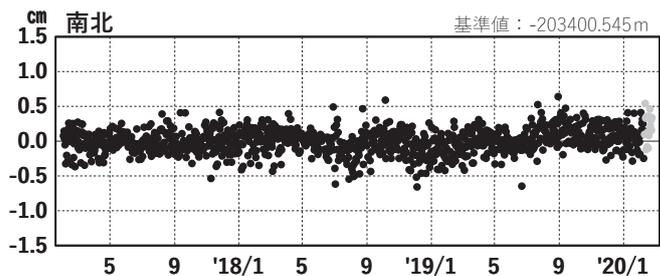
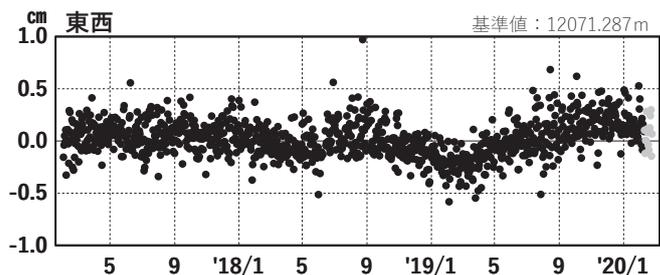
期間: 2017/02/01~2020/02/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

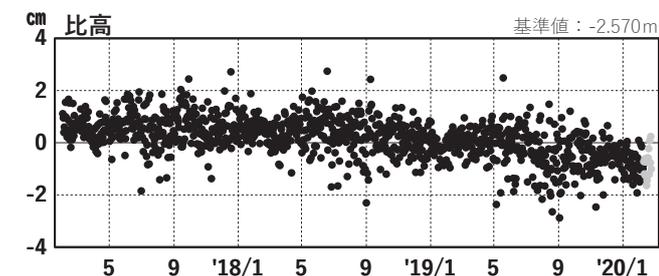
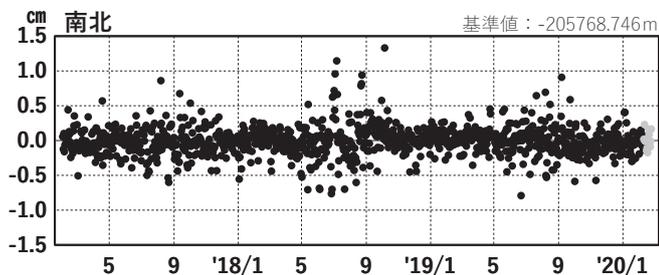
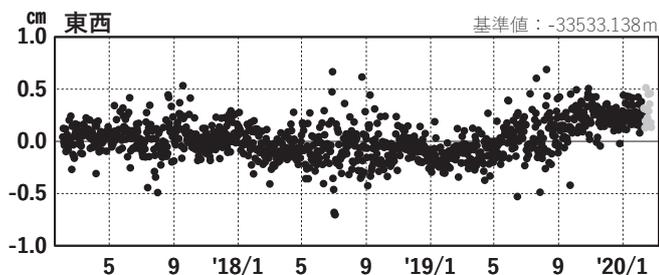
(1) 網野(960640)→阿南1 A(131198)



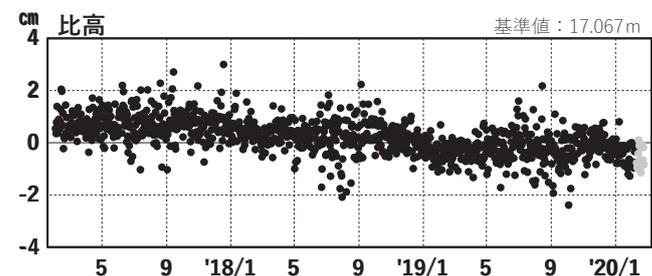
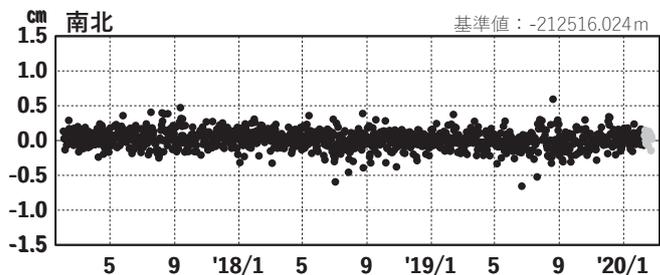
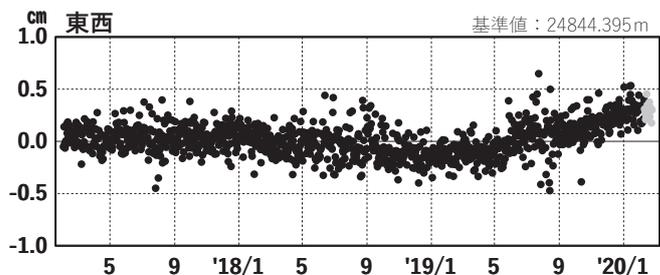
(2) 網野(960640)→P御坊(03P215)



(3) 網野(960640)→阿南2(950422)



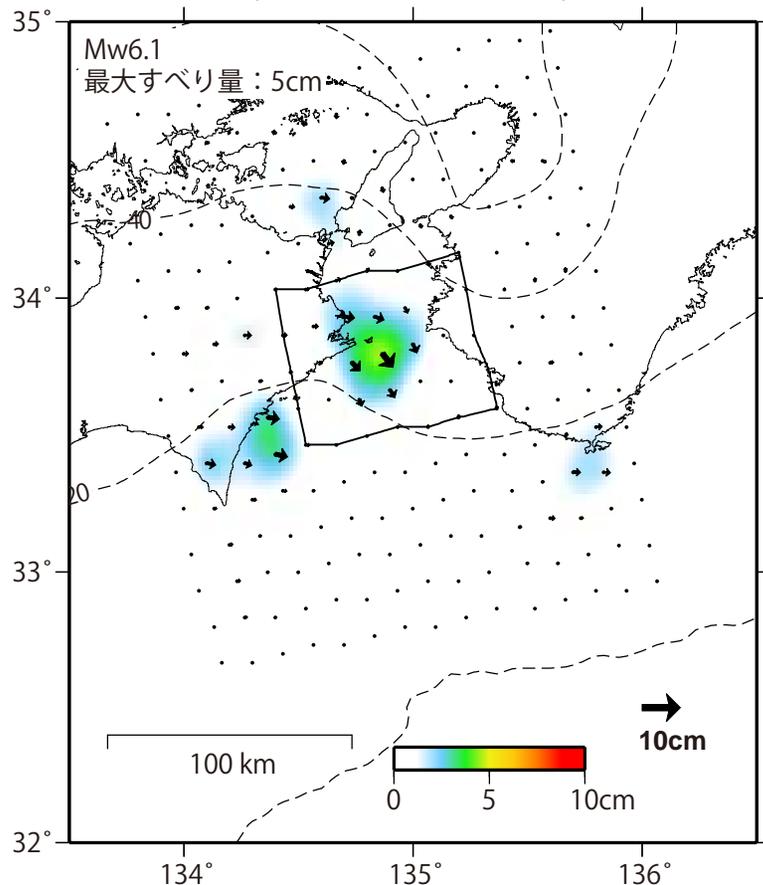
(4) 網野(960640)→みなべ(071154)



●---[F3:最終解]    ●---[R3:速報解]

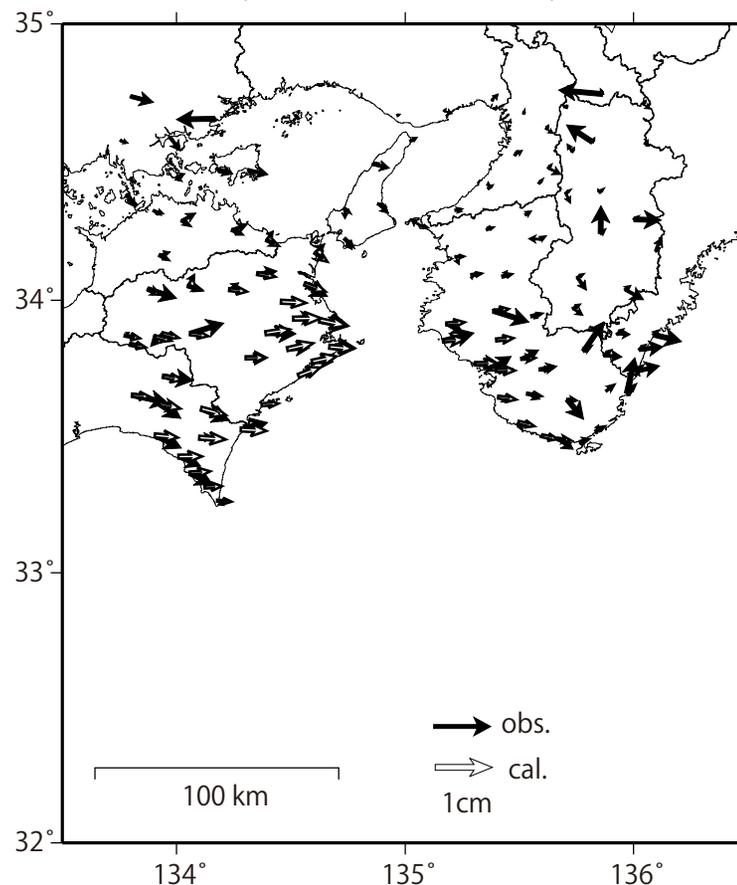
# GNSSデータから推定された 紀伊水道の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布  
(2019/4/1 - 2020/2/18)



使用データ:F3解(2018/6/1 - 2020/2/8)+R3解(2020/2/9 - 2/18)  
 トレンド期間:2017/1/1 - 2018/1/1  
 モーメント計算範囲:左図の黒枠内側  
 黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)  
 すべり方向:東向き, 南向きに拘束.  
 固定局:網野

観測値(黒)と計算値(白)の比較  
(2019/4/1 - 2020/2/18)



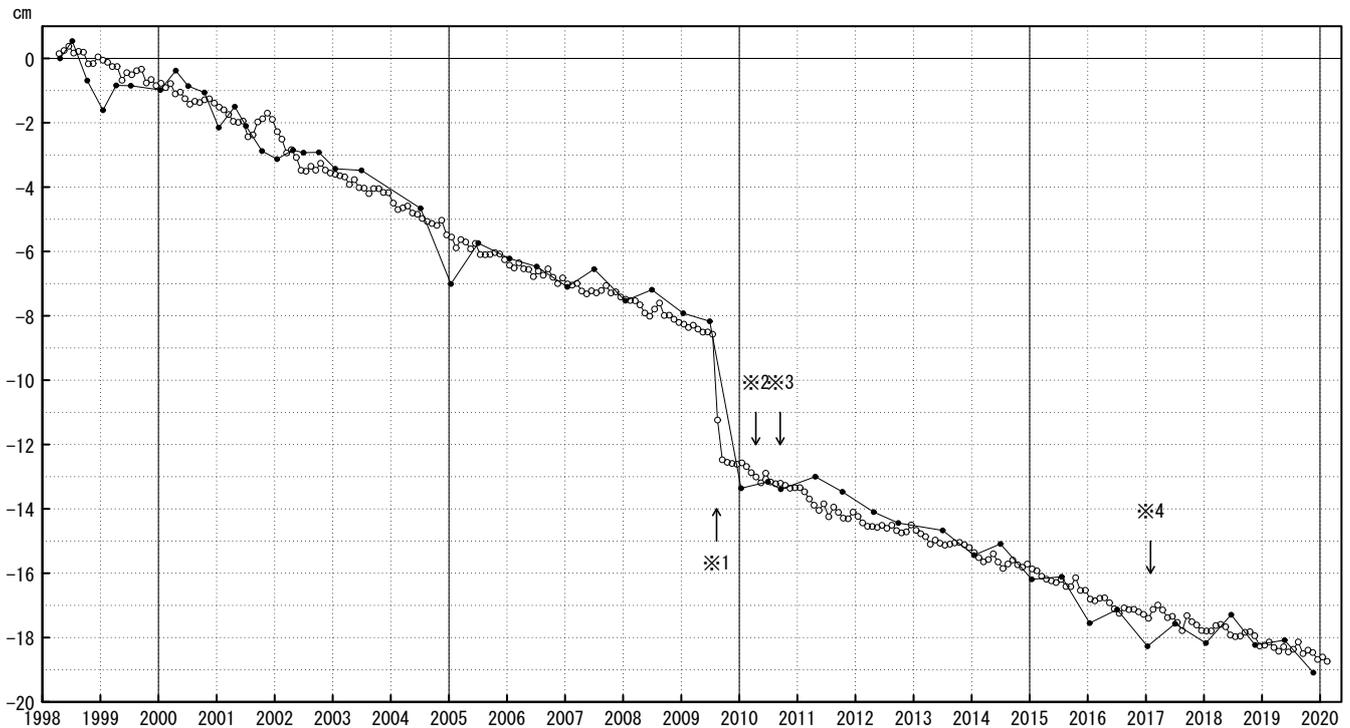
使用データ:F3解(2018/6/1 - 2020/2/8)+R3解(2020/2/9 - 2/18)  
 トレンド期間:2017/1/1 - 2018/1/1  
 観測値:3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化  
 固定局:網野

# 御前崎 電子基準点の上下変動

## 水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

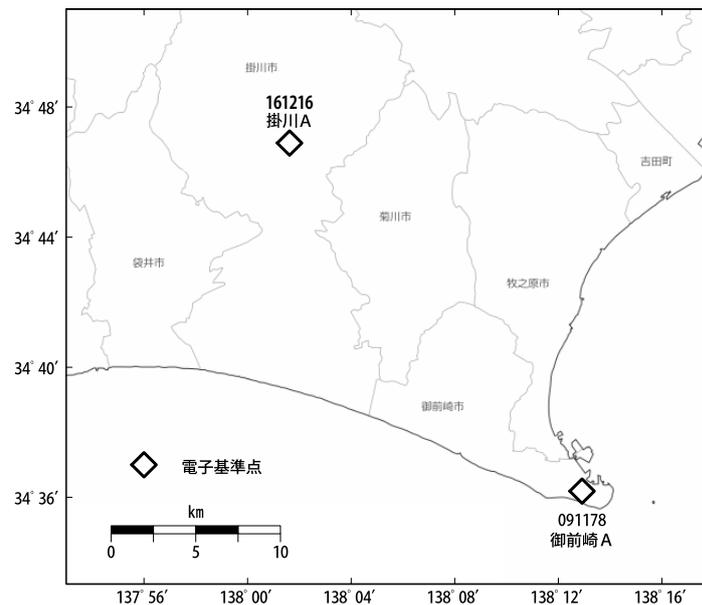
掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



● : 水準測量    ○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

・ 最新のプロット点は 02/01~02/08 の平均。

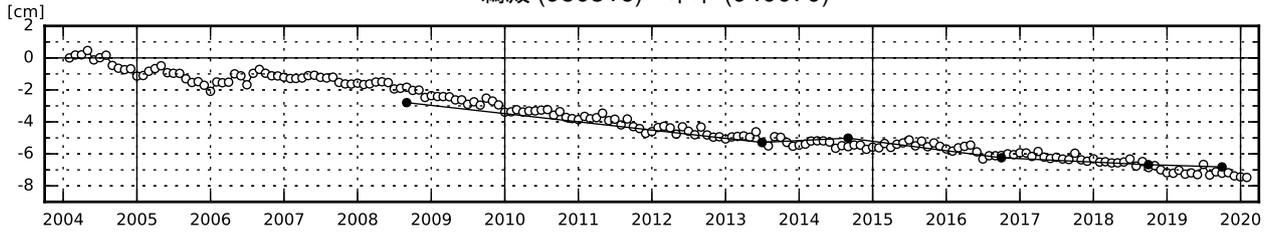
- ※1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。
- ※4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。



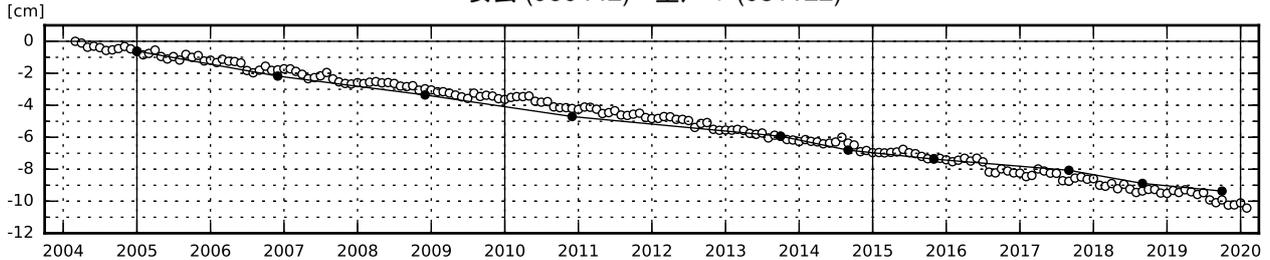
# 紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

鵜殿 (950316) - 串本 (940070)

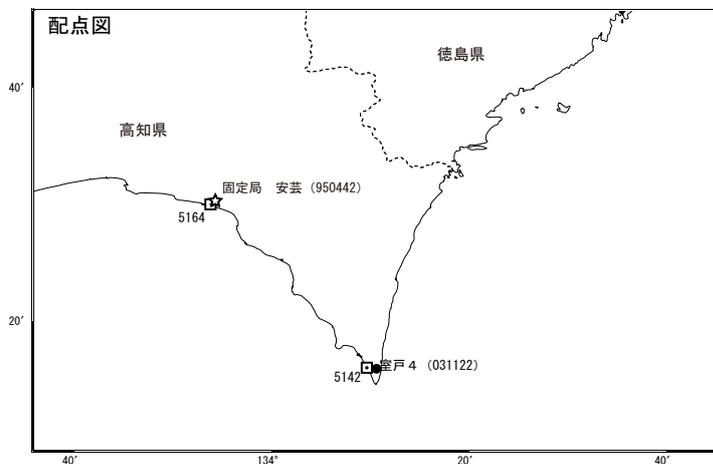


安芸 (950442) - 室戸 4 (031122)



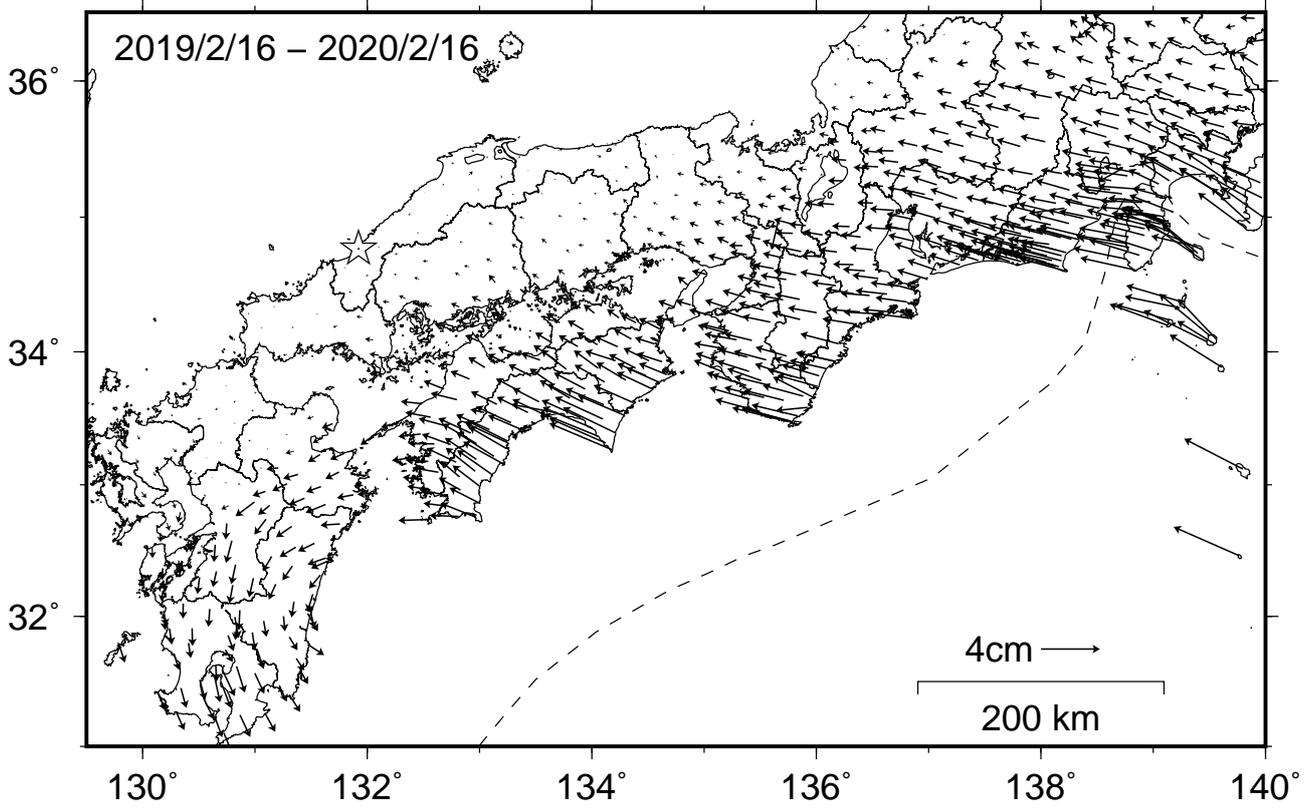
● : 水準測量    ○ : GNSS 連続観測 (GEONET 月平均値)

- ・ 最新のプロット点は 2/1~2/8 の平均.
- ・ 水準測量による結果については、最寄り的一等水準点の結果を表示している.

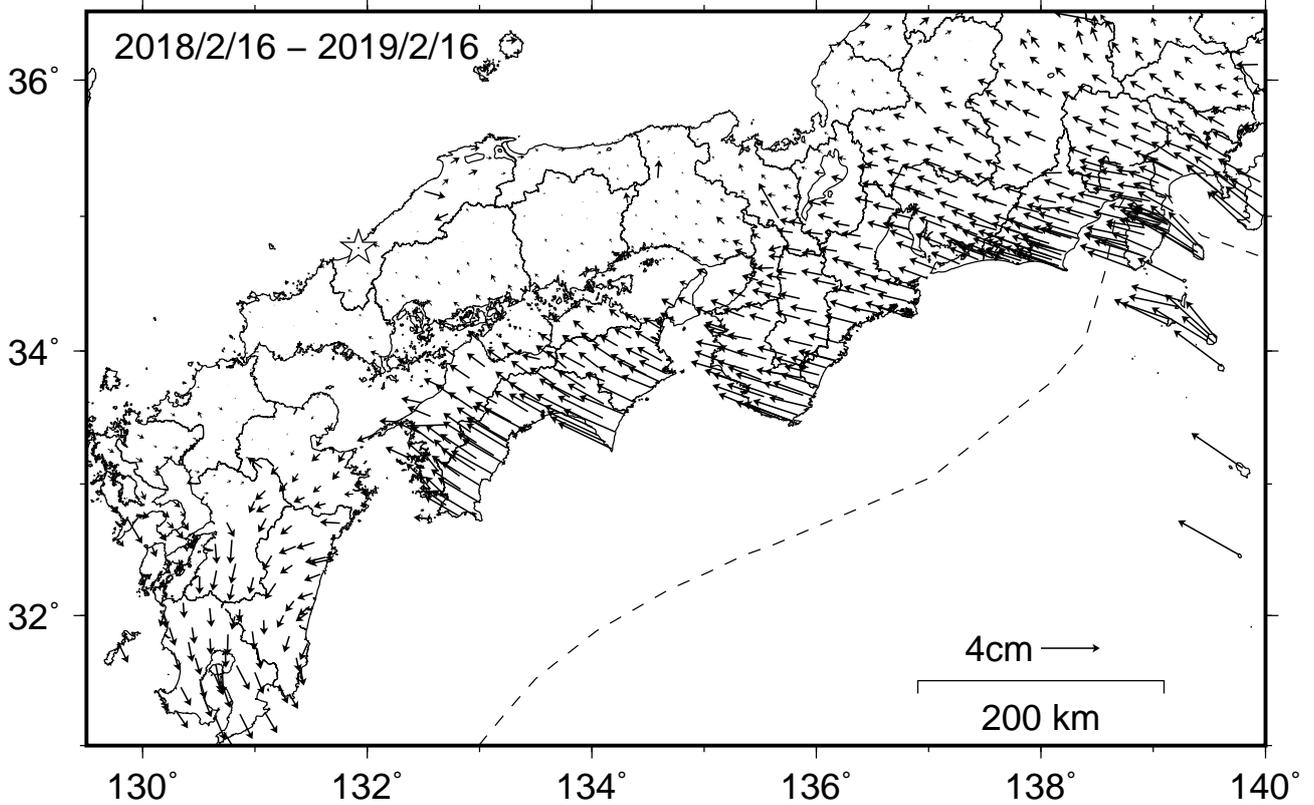


# 南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】



・各日付から6日間の変動量の平均をとり、その差から1年間の変動量を示している。

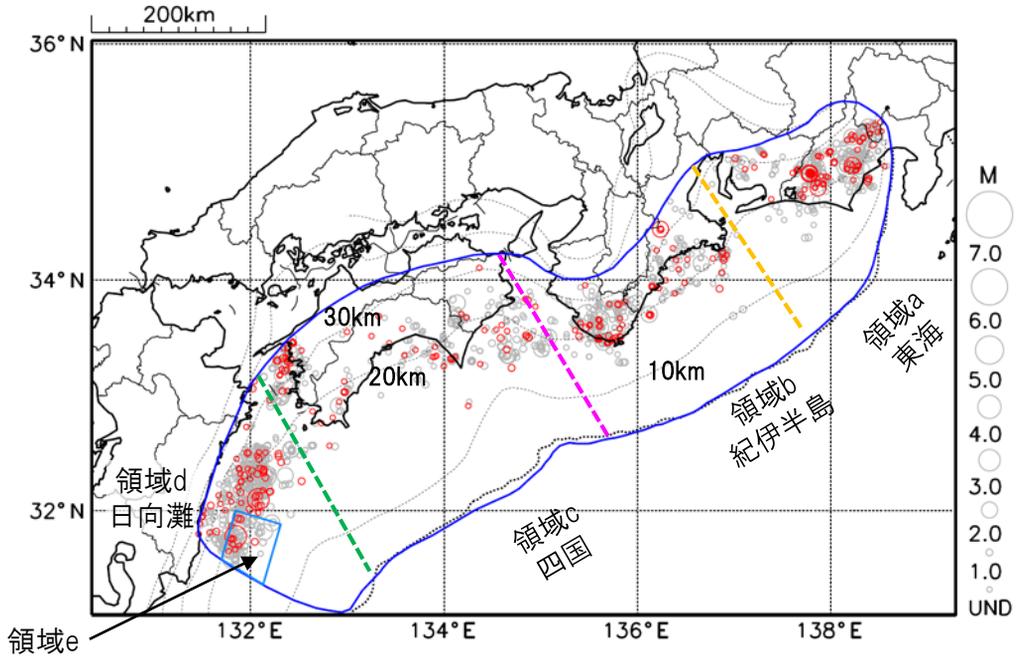
# プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

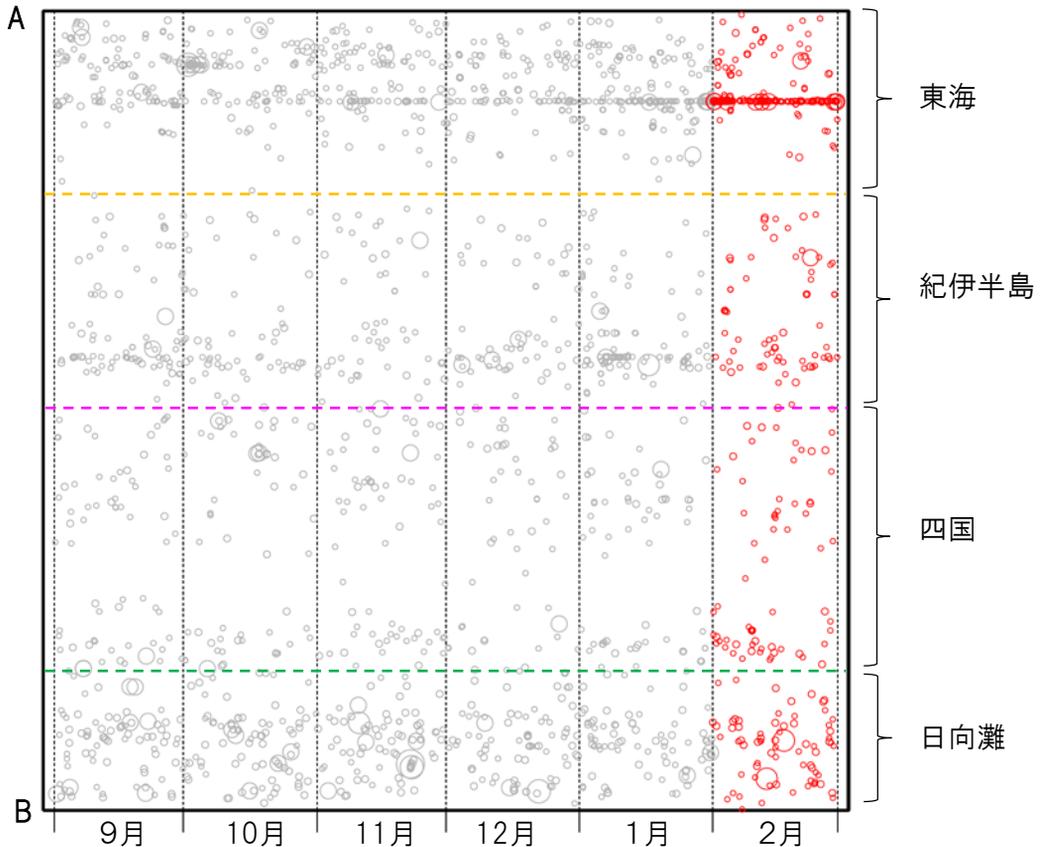
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

(2019年9月1日～2020年2月29日、M全て、2020年2月の地震を赤く表示)



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差 (+は浅い、-は深い)を示す。

・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

気象庁作成

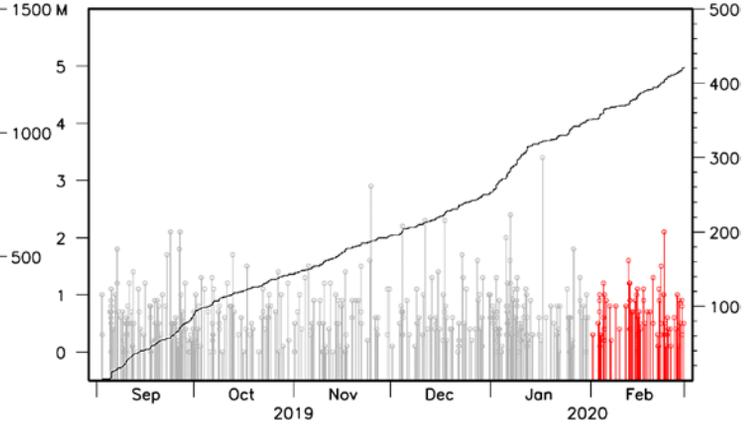
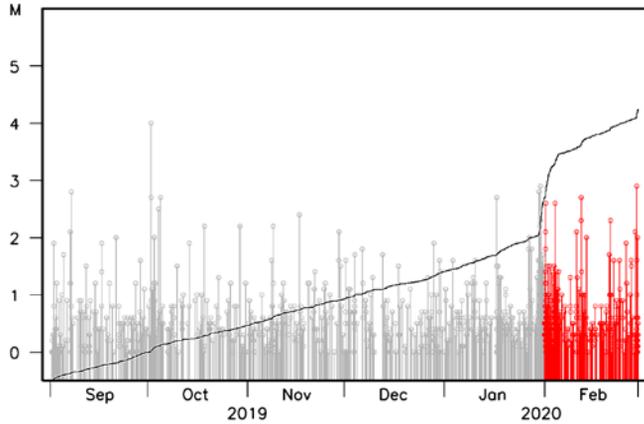
# プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図

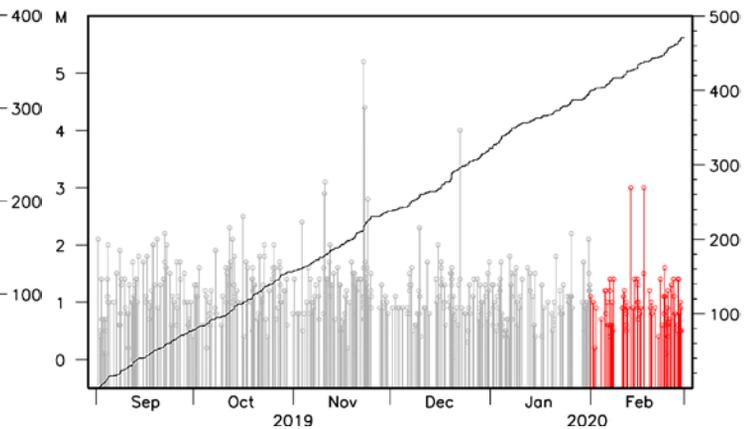
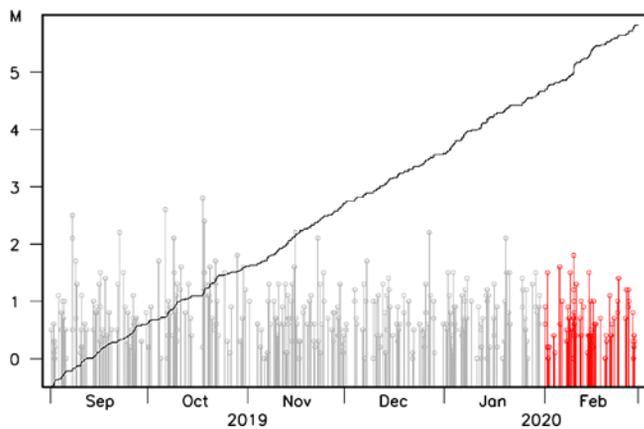
領域a内(東海)

領域b内(紀伊半島)



領域c内(四国)

領域d内(日向灘)

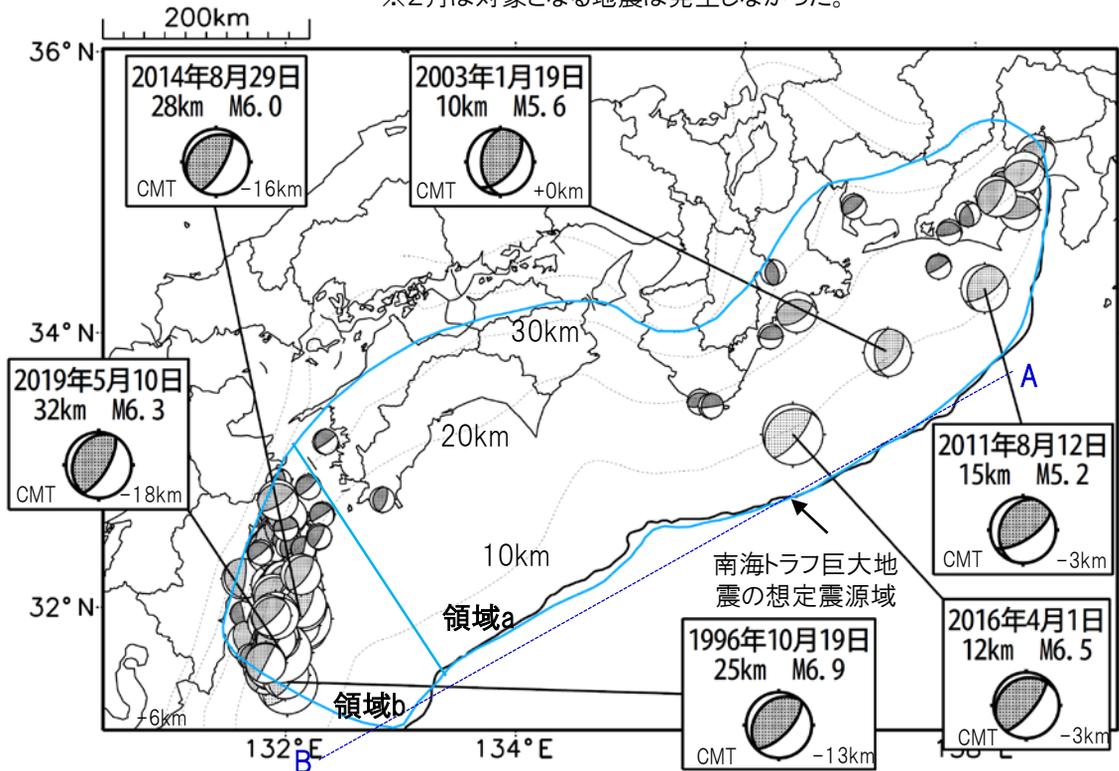


※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

# 想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

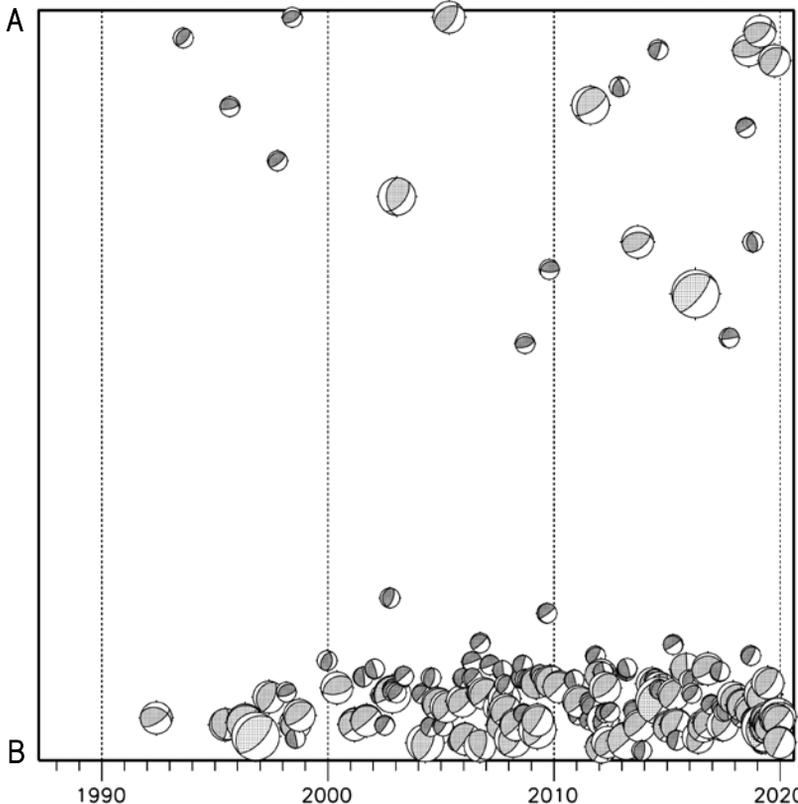
震央分布図(1987年9月1日～2020年2月29日、M $\geq$ 3.2、2020年2月の地震を赤く表示)

※2月は対象となる地震は発生しなかった。



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
- ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

**【抽出条件】**

- ・M3.2以上の地震
- ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
- ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。
  - ・P軸の傾斜角が45度以下
  - ・P軸の方位角が65度以上180度以下(※)
  - ・T軸の傾斜角が45度以上
  - ・N軸の傾斜角が30度以下
- ※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様
- ・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
- ・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。
- ・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、+10km～20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

# 南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2020年02月29日

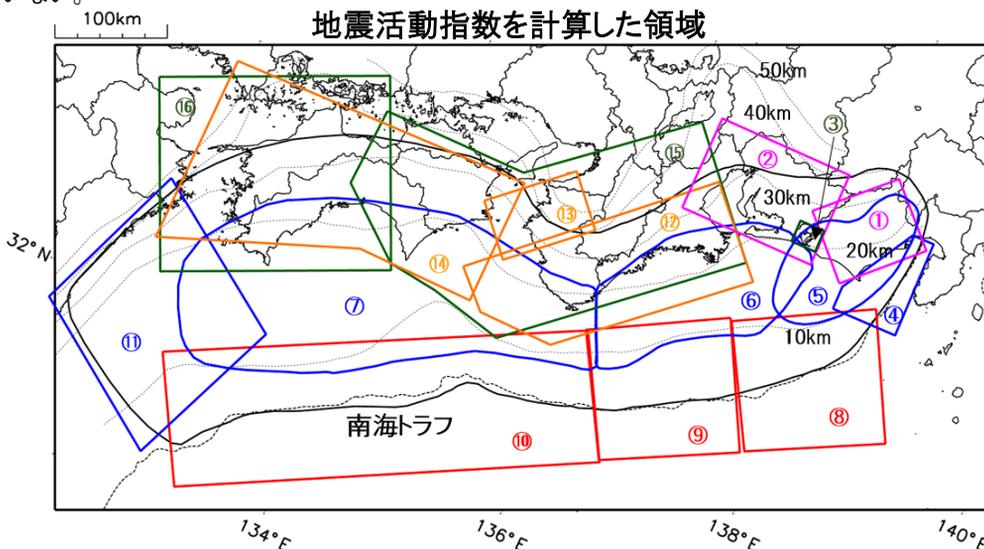
領域	①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南 海	⑦南海
	地	プ	地	プ	プ	全	全	全	全
地震活動指数	5	3	5	4	5	4	6	4	7
平均回数	16.5	18.4	26.6	13.6	13.1	13.3	18.3	19.7	21.3
MLきい値	1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離	3km		3km		3km	10km	10km	10km
	日数	7日		7日		7日	10日	10日	10日
対象期間	60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ	0~ 30km	0~ 60km	0~ 30km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 100km	0~ 100km

領域	南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
	⑧東側	⑩西側						
	全	全						
地震活動指数	6	4	5	4	4	8	5	4
平均回数	12.0	15.0	20.6	22.9	42.1	30.5	27.7	28.2
MLきい値	2.5	2.5	2.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
クラスタ 除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km
	日数	10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日
対象期間	720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ	0~ 100km	0~ 100km	0~ 100km	0~ 20km	0~ 20km	0~ 20km	20~ 100km	20~ 100km

\* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2020年02月29日

\* 領域欄の「地」は地殻内、「プ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

\* ⑨の領域(三重県南東沖)は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



地震活動指数と地震数

地震回数の指数化		
指数	確率 (%)	地震数
8	1	多い
7	4	
6	10	やや多い
5	15	
4	40	ほぼ平常
3	15	
2	10	やや少ない
1	4	
0	1	少ない

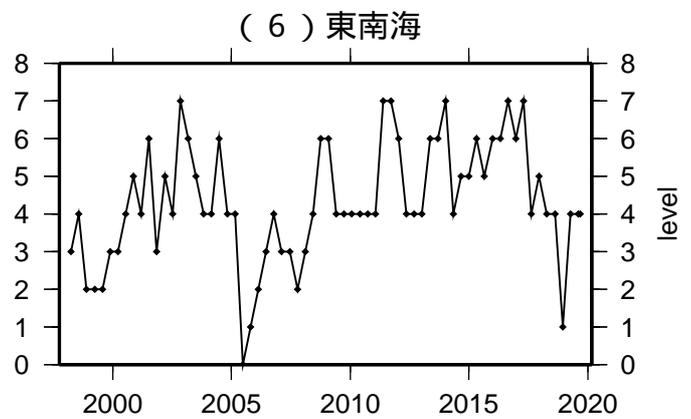
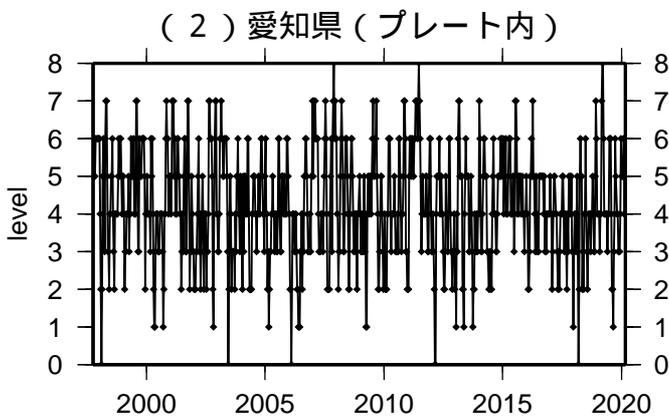
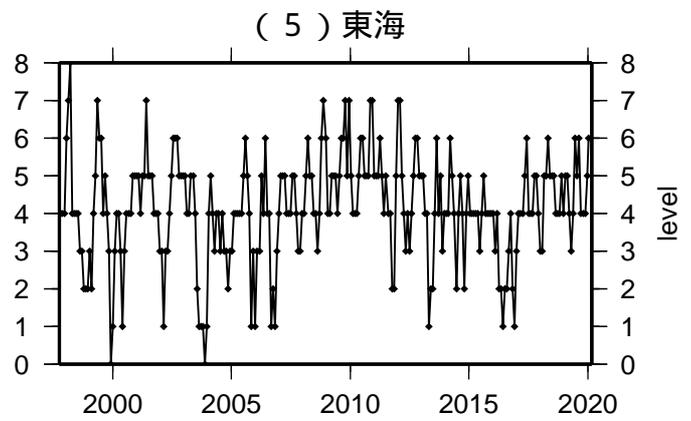
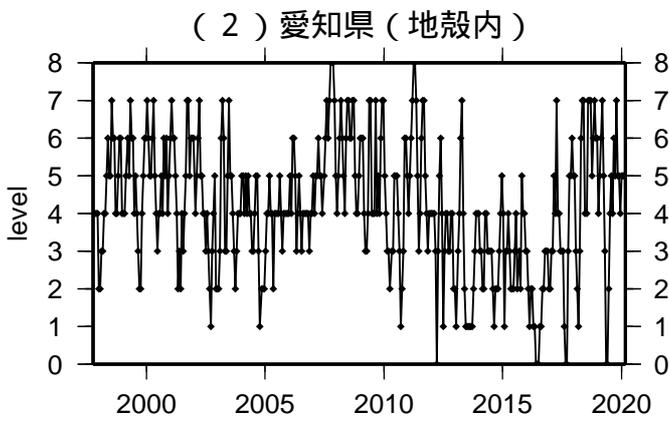
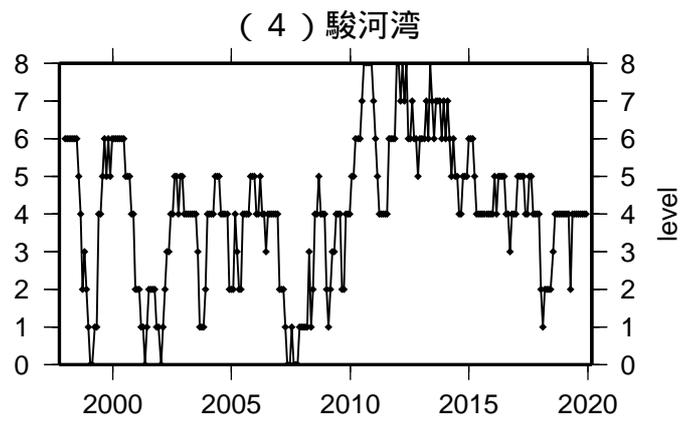
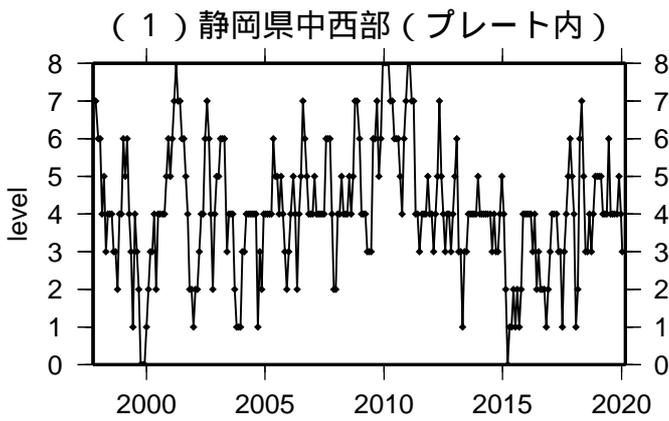
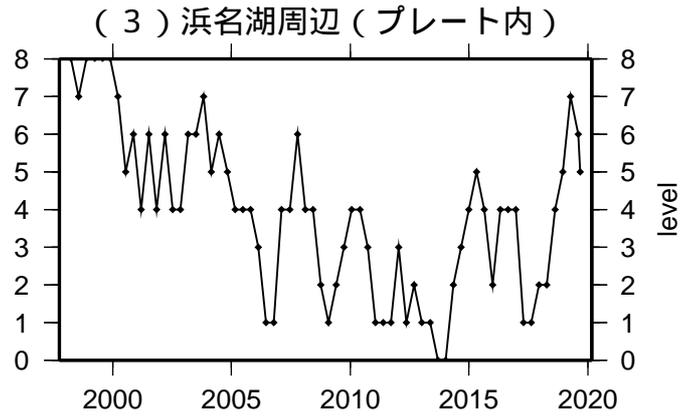
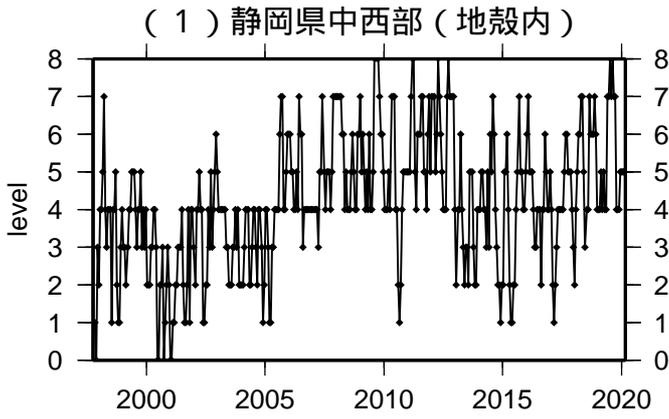
\* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

\* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

# 地震活動指数一覧

2020年02月29日

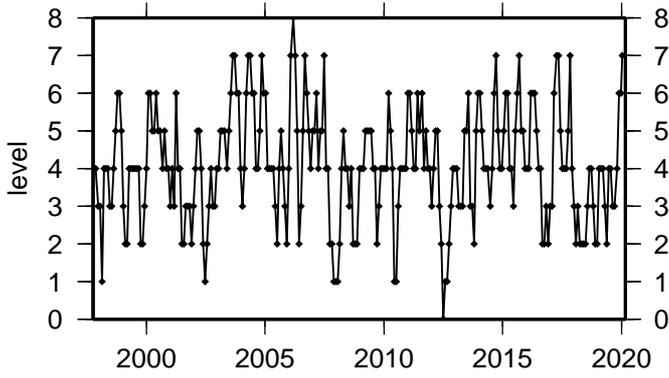


活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	←	←	←	←	←	←	多

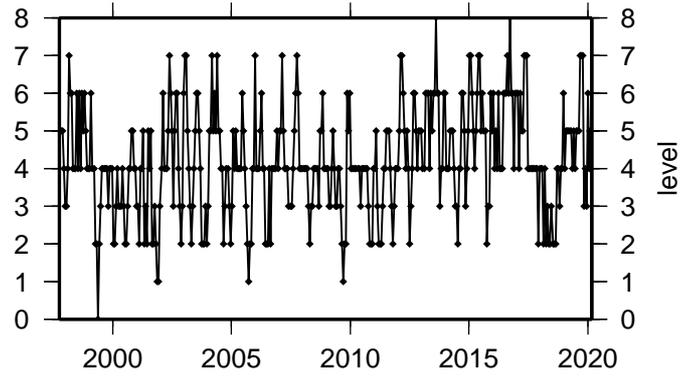
# 地震活動指数一覽

2020年02月29日

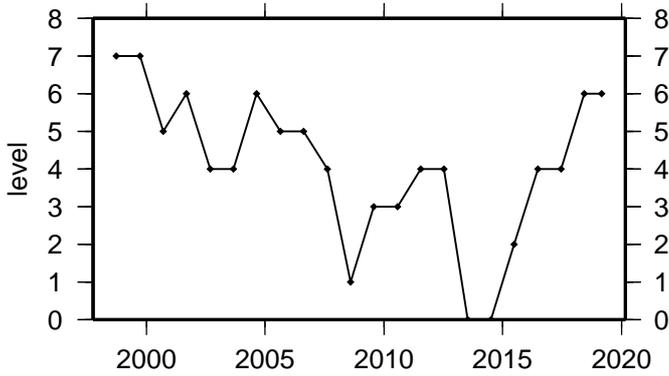
( 7 ) 南海



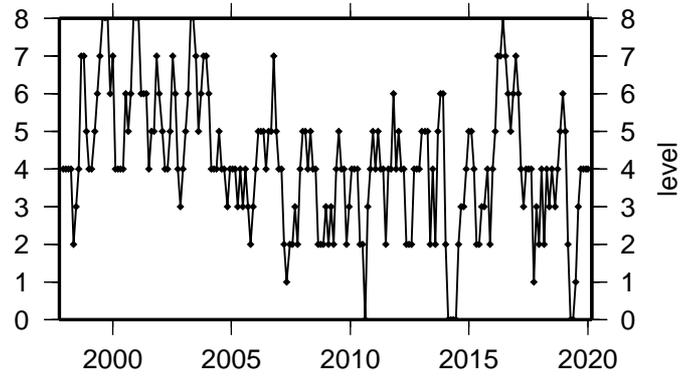
( 11 ) 日向灘



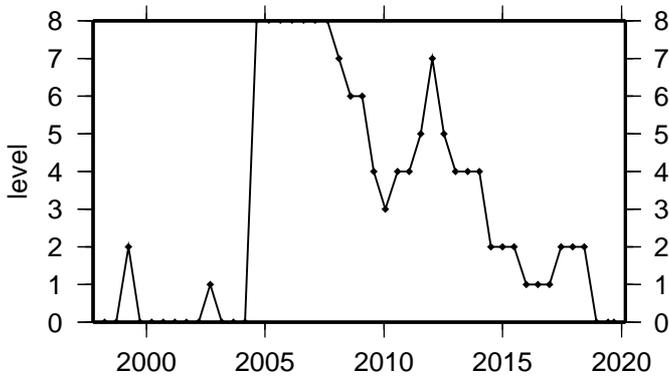
( 8 ) 南海トラフ沿い(東側)



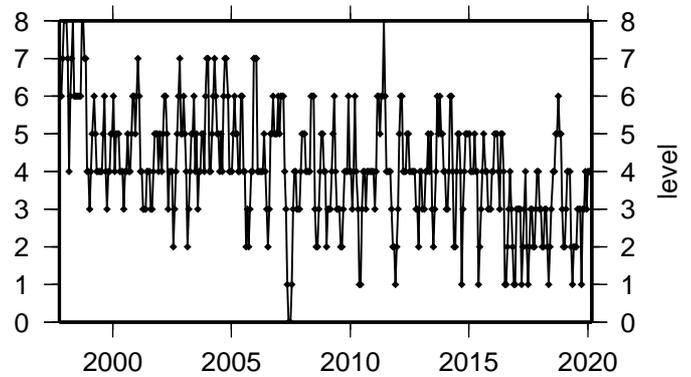
( 12 ) 紀伊半島(地殻内)



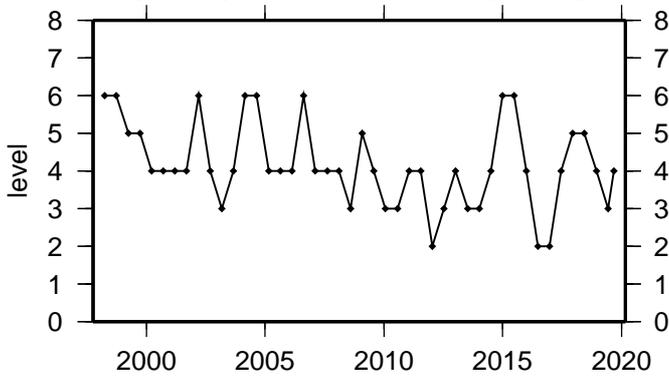
( 9 ) 南海トラフ沿い(三重県沖)



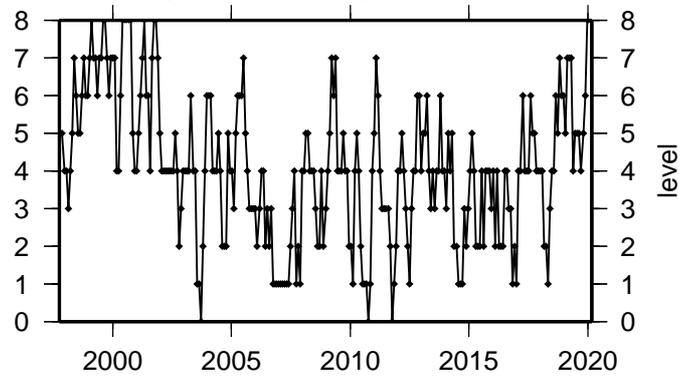
( 13 ) 和歌山(地殻内)



( 10 ) 南海トラフ沿い(西側)



( 14 ) 四国(地殻内)

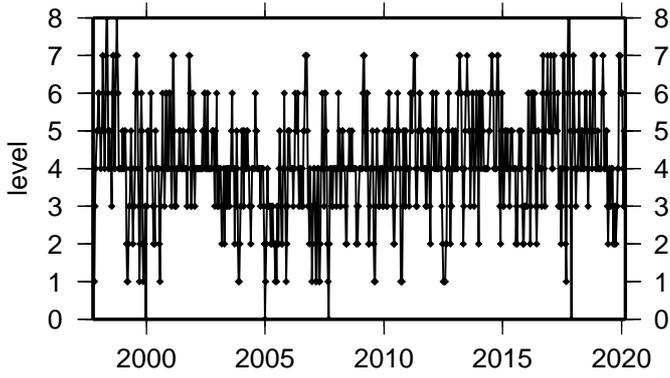


活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率(%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	←	←	←	←	←	←	多

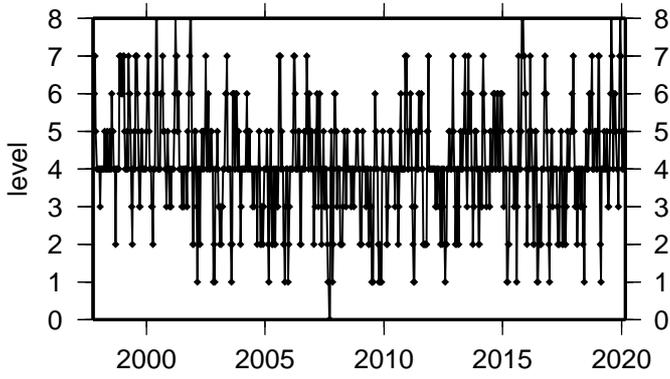
# 地震活動指数一覧

2020年02月29日

( 1 5 ) 紀伊半島 (プレート内)



( 1 6 ) 四国 (プレート内)



活動指数	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	← 平常		多					